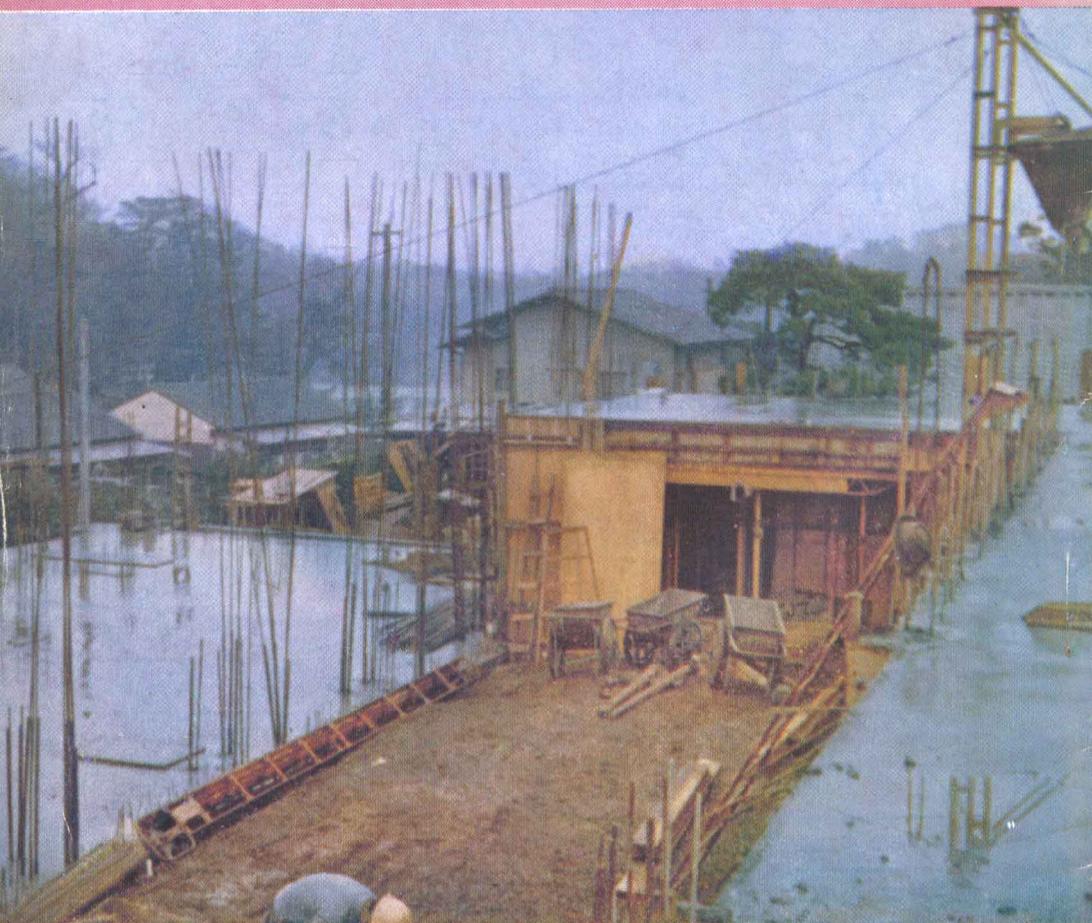


聖徒の道

11

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第9巻第11号 1965年11月1日発行

SEITO-NO-MICHI

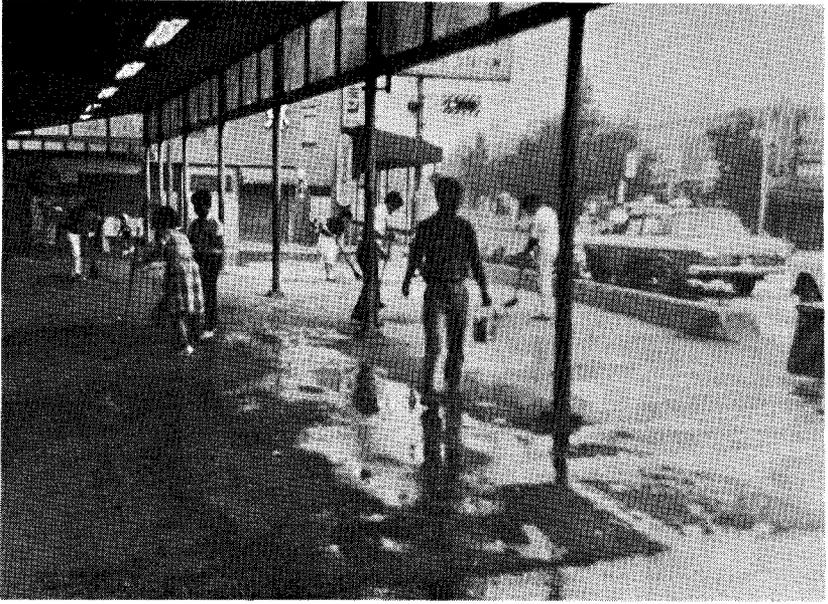


聖徒の道

第9巻
第11号

1965年 11月号

528	大管長メッセージ デビド・O・マッケイ	青少年を犯罪から守る	—— 訳 渡部正雄 ——
534	伝道部長メッセージ	アドニー・Y・小松	
536	質疑応答 ジョセフ・F・スミス	エフライムのすえの応答	—— 訳 佐藤龍猪 ——
539	私たちの大管長の92回目の誕生日 カーター・E・グラント		—— 訳 渡部正雄 ——
543	秘訣を持った人 ノルマン・V・ピール	デビド・O・マッケイを語る	—— 訳 渡部正雄 ——
547	教会員の責任		—— 訳 佐藤龍猪 ——
549	実行する必要があるでしょうか		—— 訳 渡部正雄 ——
551	アメリカの母 ドロシー・O・レア	アメリカンマザーとして選ばれたモルモンの母	—— 訳 渡部正雄 ——
555	地方部のページ 東中央地方部 北海道地方部		潟沼 誠二
562	投稿 石川善次郎	マルコ伝15章34節について 信仰者としての一考察	
565	支部だより	山形・名古屋・三宮	
568	系図のページ		
569	注目されるアロン神権者の活動	東京北支部にみる	
572	二分半の話	本郷ミヤ子	仙台支部
573	えいこのページ		



目白駅を掃除する北支部アロン神権者（提供北支部）



目白駅助役さんより感謝される北支部会員（なお 569 ページ参照）

大会を知らせるポスター
東京西支部で



大会のあい間に会員と
談笑される小松伝道部長



中部日本新聞に載った伝道中の長老、フェアバンクス長老とハドフィールド長老
(提供名古屋支部)



大管長 デビド・O・マッケイ

将来がどうあろうと、もしも私たちが静かな心と人間万事神がつかさどりたもうという確信とをもって将来に直面するつもりであるならば、私たちは個人であれ団体であれ模範となる生活を送ろうではないか。

私たちは現在世界中にはびこって人類に非常な悲しみと墮落とをもたらししている社会悪と世界に悲しみと不幸とをまきちらしている社会悪を、私たちの属している社会の中で最少にまで減らすように心して努めようではないか。

「青少年を犯罪から守る」

大管長 デビッド・O・マッケイ

(一九六五年四月四日大会説教)

テレビ・ラジオ、聴衆の兄弟姉妹及びお友だちの皆さん、このおごそかな責任ある話を始めようとする時、皆さまの心からなる支持特に主のみたまの導きの必要を痛感する次第であります。

パウロはテモテに命じております。

「神のみまえと……キリスト・イエスのみまえで……おごそかに命じる。

「御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。」(テモテ後書：四一―一二) 同じ手紙の中で彼は予言的に宣言しております。

「……終りの時には苦難の時代が来る

「その時人々は自分を愛する者……

「……神よりも快樂を愛する者……

「信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。」(同上 三：一一二、四一五)

パウロの命令と予言の精神を以て私は青少年を犯罪から守る問題を取り上げて見たいと思います。この問題に言及する時私は別に何か提供すべき新しいものを見出しません。皆さんはしばしばこの問題についてお聞きになられたことと思います。けれども私はこの犯罪の波が私たち各人の家庭に迫って来る時、出来得ればもっと励まねばならないと自覚する時、福音の原則に従って、時が良くても悪くてもそれを励みあくまでも寛容な心でよく教えて責め戒め勧むることが適当であると思っております。

私たちがよりどころを失なって、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばされたり……(エペソ書四：一四) する危険な時期に生活していることを疑う人はほとんどおりません。

今日、目立った悪の中でも私たちが真にクリスチャン精神を保存しようとするなら抑制せねばならない二つの最も有害と思われる傾向があります。その一つは結婚の誓約を尊ばない傾向であり、二番目は少年犯罪の増加であります。注意深く観察しますと、この二つの社会上の不健全な状態は緊密に関係しております。第一番目の証拠として全国的な離婚の数を一べつすればわかります。最近の統計は四組の結婚の内一組が結婚破壊機によって離婚させられております。これが今朝私が注意を喚起しようとしている未曾有の犯罪増加となっているのです。子供たちがそれによって害われているのであります。青年はその渦に巻き込まれ、これによって圧倒的に汚されているのです。

我が国の犯罪指導の権威者である合衆国調査局長のJ・エドガー・フーヴァー氏は一九六四年十一月二十四日シカゴにおいて彼のために開かれた晩餐会で次のような驚くべき報告をしました。

すべての人すべての民に大きな問題について決定せねばならない時が来ます。その解決を引き延ばすことは不幸を招きます。その時期が今合衆国に到来しているのです。

一九五八年以来、国内の犯罪増加率は人口増加の五倍に達しているという恐るべき現実に直面せねばならない時期が来ているのです。第二次大戦終了後から殺人、強盗、強奪、夜盗、強襲、自動車強盗などの重要犯罪が著実に増加しているのです。一九五一年にこれらの犯罪は始めて百万を記録し、一九六三年中には二百二十五万以上の重大な犯罪があったと報ぜられております。しかも更に悪いこと、この急激な増加は主として国民全般にわたっての青少年犯罪増加に起因しているのです。青少年犯罪は昨年で十五年間、引き続いて増加の一途をたどっているのです。一九六三年度の合衆国犯罪の七十二％は青少年犯罪であります。犯罪の金額は一年間に二百七十億弗と言う驚くべき額に達しております。

この偉大な国民の何と哀れな道徳水準でしょうか。我が国民の道徳は恐ろしく低下しているのです。私たちがこの疾患を矯正しようとするなら神の教えに戻らなければなりません。これらのショックを受ける統計は、これに対する一般民衆の明らかな無関心と共に今日私たちが見るに忍びない虚偽の道徳を示しているものであります。人間自身がつくったものを礼拝し尊重するような風潮は正しくありません。それは人間自身と同様に不完全で弱いものであります。けれども感覚に魅惑されてしまったこの種の風潮は我が国民の生存に極めて大切なことに何

らの助けとなるものでもありません。この様な道徳標準の低下はただ國民を無力にしましうばかりであります。このような状態を指摘することによって私は私たちの青年が全般的に私たちの信頼に値しないというのではありません。私たちが今指摘しているのはほんの一部の人についてであります。

数年前、北ダコタのバトランズで四才の子供が迷い子になりました。その地方全体の人が救出に乗り出しました。けれども彼らは母親の懷に抱かれていた数千の安全な四才の子供たちのことを考えませんでした。汽車または飛行機の事故は私たちにショックを与え同情心をそそり、安全性を要求しますが数千の汽車、飛行機が安全に輸送している数百万の人々のことを忘れがちです。

人生行路上における悲劇を氣遣うあまり、罪に陥ることなく靈的墜落を避けて成功の道に向って、しっかりと歩みが続けている大部分の人々を忘れてしまふようなことのないようにしましょう。それらの人々の高貴な生活は、発展して行く世代の信頼を固め増すものであります。失われた羊を探し求めるにあたって、囲いの中に安全にいる九十九匹に感謝することを忘れないようにしましょう。

けれども大部分の若人に対する私たちの信頼が如何に強くあろうとも、私たちは青少年犯罪が不吉な増加の傾向をたどっている事実を眼を閉じるべきではありません。私たちの社会の道徳的風潮、国家の福祉、民主政体の持続を考へて私たちはこの犯罪上昇の原因を究め、できるならそれを除去して適当な矯正を実施すべきであります。青少年犯罪増加の大切な原因の一つに家庭の理想の低下があります。

経済的な独立または家計の改善に性急の余り、最も大きな責任である家族の養育を無視する母親があまりにも多いのです。フーヴァー局長は、はっきりと次のように声明しております。これらの青少年犯罪者の背景には無視されたショックが横たわっています。少年少女たちは彼らの人格の基礎を築くのに必要な注意と導きを奪われてしまっているのです。彼らの無法はその大切な責任を果さずに彼らを無視した母親や父親の破壊された家庭に根が生じているのであります。彼らの家庭は神を知らないか、あるいはその大切であることを知らないわけではないのですが歓迎していません。

他面これら青少年犯罪のほとんどの場合が、彼がもし機会を与えられていたら強く正しい市民となっていたでしょう。もしも彼のとじこめられたエネルギー及び希望が健全な線に沿って進められていたら、彼を問題の子と

した問題が寛容で思いやりのある母親によって解決されていたら彼は社会に善良な影響を及ぼす存在となつていたのでありましょう。

皆さんは私が極端だと思われるかも知れませんが結婚した女性が母親としての責任を果さないか、子供を持つておりながら自分の快樂または社交のために彼らを無視する者は女性としての特権と最高の召しに卑怯な者であります。事業または政治的あるいは社交的責任のゆえに子供たちを養育する責任をその妻と分ち合わない父親は彼の結婚の責任に不忠実であり、楽しい家庭的なふんいきに反し不和と犯罪に貢献していることになり得るのです。すべての子供は次の三つの基礎的な権利を持つております。(一)尊敬される姓名 (二)安全感 (三)進歩の機会。

家族は子供に社会で呼ばれる名を与えます。子供は友だちのように善い家族を欲します。子供は父親に誇りをもち母親に靈感を覚えることを望みます。その子供たちが美しいこと、甘いこと、清いことすべてを母親と共にするような生活をするのが、母親の義務であります。アメリカ合衆国の前大統領でハーバート・フーヴァー氏はこのように言っております。

我々がすべての科学的な事実を究め、社会保護施設を設け、教育機関、保健所、訓練所、遊戯場などの建物を建てても肉体的に道徳的にまた精神的に母性愛が与え家庭がもたらす効果の十分の一にも過ぎないのであります。これらのうち如何なる機関といえども母親の天性である、献身、奉仕の精神をもたらすことはできないのであります。そして父親は子供がそのよい模範に見習つて善良な市民となり教会では眞実な末日聖徒となるように生活すべきであります。

子供は家庭はかばつてくれるところ、外の世界の危険や悪から守つてくれるところであると感ずる権利があるのです。これを充たすには家庭が一つになつて健全でなければなりません。

家庭は人の社会的政治的生活の最高理想を教えるのに最上の場所であります。すなわち家族の一人が為す完全に自由な行為がその家族の他の者の権利及び特権を犯さないからであります。

今日アメリカ人の家庭に非常に必要としているのは、より多くの宗教であります。親たちはその行動と言葉を以て彼らが眞の宗教の成果について重大な関心を持つていることをはっきりと示すべきであります。両親の模範は、私たちの家族に対し、隣人に対しすべての接する人に対し誠実でなければならぬこと、また、雇傭人に対

し親切であり雇主に對し、公正でありお得意さんに對し量たっぶりであることを強調するものでなければなりません。主はその責任が屬しているところに直接責任を置いて、そこで申しております。

その子供たちに福音の原則と主の前に正しく歩くことを教えることは両親の義務でありもし彼らがそれを教えないならば罪はその両親の頭に留る。(教義と聖約六八：二五) 家庭に次いで少年犯罪防止の有力な力となっているのは教会であります。

私は最近ニューヨーク・ヘラルド・トリビューンの出版物に発表した統計を見て嬉しく思ったのですが一九六四年のある標準的な一週間に我が国の大人の人口の四十五％が教会に出席しており、このパーセンテージは最高である一九五八年度よりは低下しておりますがそれでも他の文明諸国より五〇乃至七〇％上廻っているであります。男性はあまり宗教的でないと言われていたにもかかわらず全合衆国の男の大人の四十％が毎日曜日に教会に出席しているのは興味あることであります。四十九％の女性が規則正しく出席しております。このことは合衆国において四千九百五十万の大人の男性及び女性が教会に出席していることを意味しております。けれども他の五十五％の教会に出席していない男女はどうでしょうか？ そしてこれらの家庭に育つ子供たちはどうなるのでしょうか？ 彼らの教会に對する冷淡さは私たちの勤勉な活動に拍車をかけるばかりであります。

キリスト教会に冷淡なところでは私たちは青少年犯罪防止に最も大きな影響を及ぼすものとして家庭の次に教会でなく学校をあげます。

私は幼稚園から大学校まで教育制度の最高の目的は人格をつくり忠実な市民を送り出すことであると心から信じております。三つのR(リーディング、ライティング、アリスメティック算数)を教え、芸術、科学ひいては探究調査に至るまで如何なる学問の分野に及ぼうともそれは究極において立派な男性及び高貴な女性を育成する手段に過ぎないのであります。

眞の教育は眞理に對する愛を目覚まし、正しい義務の感覚を持たせ、大いなる人生の目的に對し心の眼を開かせることであります。それは個々人に、その個人のために善を愛することを教えるのではなく、善そのもののために善を愛することを教え、心が正しいから行爲も正しくなるのであって、恐れからでなく神の完全を喜ぶ心から神を愛し無上に奉仕するのであります。

社会をこの高い標準に引上げる責任は教師の肩にかかっております。アメリカの有名な賢者ラルフ・ワルド・エマソンは言いました。人格は知性よりも高い。……偉大なる人は思索すると同様に強く生きる。青少年犯罪防止のもう一つの方法は、市町村、社会及び国家の指導者の道徳的風潮であります。これは成人特に法を実施する立場にある役人の思想を行動によって定められるのであります。

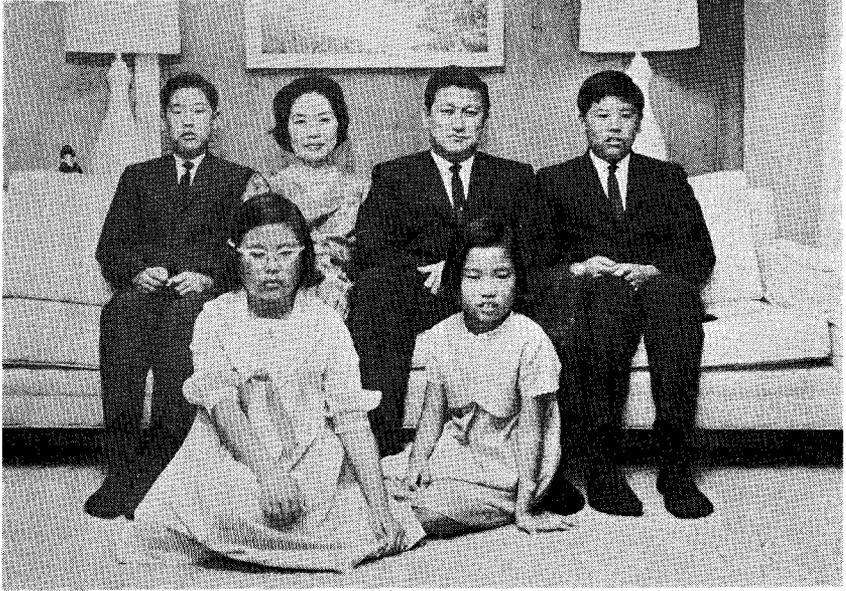
もし私たちが心から青少年犯罪を少なくしようと願うなら私たちは自身が社会の一員であり指導者であり、政府の役人であると考えねばなりません。物質を征服し現実の力を持った国民はその若人たちの批判的な態度を是正する効果的な手段をも持たねばなりません。この態度は、高い地位の人たちの間にあふれている不正直、不誠実な指導精神、はてな野外劇のような犯罪によって、もたらされているのであります。

ほんとに私たちは危険な時期に生活しております。けれども私たちは彼らが今世において鉞^{ちし}滓^しを消却し金を精製する火焔^{えん}であるように希望するのであります。

潔い男は国家の財産であります。清浄な女性は真に国家的栄光の化身であります。義を愛し悪を憎む市民は闘士に勝ります。如何なる社会の強さも、潔く清潔で正しく真直ぐ義を目ざし、悪の接近に敏感な人々の間に存在するのであります。

ここに末日聖徒イエス・キリスト教会が、その神権定員会や補助組織を以て、特に悪と戦い、青少年犯罪防止のために存在していることに感謝しましょう。それは父なる神と御子イエス・キリストの神性な啓示によって設立されたものであります。その栄えある使命は回復された福音を宣言し、人々がお互いにもっと親しくなるように社会を向上させ、私たちの社会において子供たちが誘惑を拒む力と、文化的精神的達成のために努力する勇氣を見出せるような健全な環境を造り、物欲、感情の奴隷となつた者から利益をとろうとし、賭博、飲酒、ニコチンに溺れる者から財布を充たさんとする、悪だくみをする者の影響を無効にさせることにあります。福音は、如何にしてこの人生において幸福を獲得し、来世において昇栄を達成するかを教える合理的な哲学であります。

私たちが家庭、学校、教会及び私たちの社会において、向上的な健全な靈感された環境をつくることによって私たちの若人に対する責任を果たすことができるよう神が助け給わるようイエス・キリストの名によってお祈り致します。アーメン



伝道部長メッセージ 小松義雄

愛する兄弟姉妹

小松姉妹と私は伝道部を旅行して各地方部大会で皆さんにお逢いして、この日本に多くの会員がおられるのに驚きまた皆さんの忠実な信仰生活に強い印象を受けました。特に若い会員の皆さんがいろいろな支部及び地方部の組織内で活潑に活動している姿に深く印象づけられました。

私は皆さんがよく福音を学びそれを実生活にとりいれて主が忠実な者に約束された祝福を受けられるように望みまた祈ります。私たちは次のように教えられています。

そもそも創世の以前より天において定められた一つの変わらざる律法ありてあらゆる祝福はこれに基くなり。

すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり（教義と聖約一三〇・二〇・二一）

この地上に生れたすべての人には自由意志が与えられております。私たちはそれぞれのような生活をするか自由に選ぶ権利を持っております。もしも私たちが正しい生活を選ぶなら約束された祝福を受ける特権を持つわけであり、もしも私たちが罪深い生活をするなら切角与えられている特権である祝福される権利を放棄するのであります。

自由意志の原則は行動の自由とその行動に対する責任を含んでいることを覚えて下さい。私たちの天父によって約

束されたすべての祝福は神の律法に従うことを前提として
おります。律法に従う者には祝福は拒まれせん。この律
法を無視または律法に違反する者は約束された祝福を要求
することはできません。

私たちは皆それぞれ異っており二人が同じだと言うこと
はあり得ません。人々の進歩は全くその人の努力にかかっ
ているのであります。人の自由意志のために私たちはそれ
ぞれ異った独立した存在であり個性を持っているのであり
ます。

ウイリヤム・シーグレッグはこの自由意志について次の
ように表現しております。

神は人々を天国に入るように強制しておりません。この
永遠の真理が与えられておるのですべての人は自由であ
り、自己の生涯をどのようになるか自由に選択できるので
あります。

神は知恵と愛と光とその他幾多の善い親切な方法を以て
勧告し、指示し、招いておりますか決して人の心を強制し
てはおりません。

自由意志による選択には、決心をし、正しい選択をする
大きな責任が伴っているのであります。常に私たちは正し
い選択をするように心がけましょう。

私は皆さんにマタイ伝六章三十三節を推奨します。

まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これ

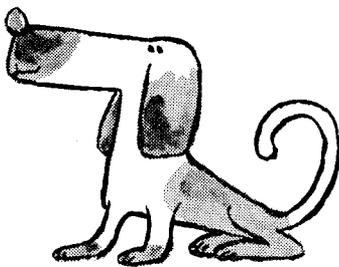
らのものは、すべて添えて与えられるであろう。

更に教義と聖約八十二章十節で次のように告げられてお
ります。

汝らわが言うところを行なわば、主なるわれこれに対し
て責任あり。されど汝らわが言うところを行なわずば汝ら
何ら約束を受けず。

私たちは常に正しい決心をしすべてのことに神と神の王
国を求めるようにしましょう。

へりくだってお祈り致します。



Your Question and Answer

質 疑 応 答

解答者 ジョセフ・フィールデング・スミス長老

質 問

イスラエルの十二支族に与えられた祝福、とくに「教義の聖約」第八十四章三十三—三十四節の聖句を検討すると、私たちがエフライムの系統であることがわかります。これは血統によってですか、または養子縁組によってですか。また「失なわれた支族」は本当になくなってしまったのですか、または見てもわからない状態になって世界のどこかにいるのですか。

解 答

現在のところ福音を信じている人々の大部分はエフライムの支族に属している。モルモン経からわかるようにレーマン人はエフライムとマナセの両方の支族のすえである。リーハイがその息子のニーファイをエルサレムへ返して手に入れた版の記録には、リーハイはマナセのすえであるとしてあった。また予言者ジョセフ・スミスに下った啓示によるとリーハイの息子たちと結婚したイシメルの娘たちはエフライムのすえであったことがわかる。これによってジョセフに与えたヤコブの祝福は成就した。ヤコブの祝福は次の通りである。

「ヨセフは実を結ぶ若木、泉のほとりの実を結ぶ若木。その枝はかきねをこえるであろう。射る者は彼をはげしく攻め、彼を射、彼をいたくなやました。

「しかし彼の弓はなお強く、彼の腕はす早い。これはヤコブの全能者の手により、イスラエルの岩なる牧者の名により、

「あなたを助ける父の神により、また上なる天の祝福、下によこたわる神の祝福、ちぶさ」と胎の祝福をもって、あなたをめぐまれる全能者による。

「あなたの父の祝福は永遠の山の祝福にまさり、永久の丘のたまものにまさる。これらの祝福はヨセフの頭に帰し、その兄弟たちの君たる者の頭のいただきに帰する。」(創世記四十九〇二十二—二十六)

主(イエス)がその弟子たちをつかわして全世界に福音のことばを宣べ伝えさせたもうたとき、主は将来人々が教えにそむいて、多くの者の愛がひやかかになる時がくるであらう

うとおいになった。

「また王国のこの福音は、すべての国民にあかしをなさんため全世界に宣べ伝えられん。而して後に終りすなわち悪しき者の滅亡に至るべし。」(高価なる真珠、ジョセフ・スミスの著一〇三十一)

この予言のことは、福音が回復されて全世界に教えられることを暗に示している。福音が回復された後に「……日は暗く、月は光を放たず、星は空より落ち、天の力震動すべし。」(同前、一〇三十三)

福音が回復された期間中に、福音を宣べ伝える責任はエフライムのすえ、すなわち末日聖徒に課せられてゐる。今日、この予言のことは事実となって現われつつある。「教義と聖約」第百三十三章の中で、主ははっきりと次のように仰せになっている。

「この故に異邦人の中に在る者たちよシオンに逃れよ。

「ユダのすえはエルサレムへすなわち主の家の山へ逃れよ。

「汝ら、もろもろの国民の中よりすなわちバビロンより、霊のバビロンなる悪の中より去るべし。

「されどまことにかくの主は言う。汝らの逃るるや。急ぎて事を為さずしてすべてのことあらかじめ備えを為すべし。而して去る者は後はいかえり見ることなかれ。亡びの突然彼をおそわざらんためなり。」(教義と聖約百三十三〇十一—十六)

この啓示と、そのほか聖書、モルモン経、教義と聖約にあるほかの啓示から、ユダヤ人がエルサレムに集るはずであることがわかっている。このアメリカ大陸には改宗をしたイスラエル人と異邦人とが末日聖徒と共に集るはずであって、啓示によると異邦人の中から来る者たちはシオンへ「逃げてくる」と言っている。しかしながら

この者たちは「急いで」出では来ない、すなわち末日聖徒らは数々の神殿を建て道をつくっている。これらはイスラエルの予言者がイスラエルの支族に話しかけて、彼らがシオンへ来る呼び声を受け入れるとき彼らに必要なものである。

われわれは「失なわれた支族」について、どのような者が「失なわれた支族」であるか、または「失なわれた支族」はどこから出てくるかほとんど知っていない。今のところでは、これらの「支族」とその「来ること」について言われている。主のみことばにたよるほかはない。主は次のように啓示したもうた。

「彼はシオンより声を出し、エルサレムより語り、その声あらゆる人々の中に聞ゆべし。

「またその声、多くの川のひびき、大いなるいかづちのひびきの如くにして、そのひびきは山々をくずし、谷々をうずむべし。

「彼はいと深き淵に命じて北方の国々にしりぞかしめ、島々をして一つの地とならしめん。

「而して、エルサレムの地とシオンの地とはもとの所に返えり、地球はそのいまだ分れざりし前の時代の如くにあらん。」(教義と聖約百三十三〇二十一—二十四)

創世記を見ると、ペレグの時代に始めて地が分れたから、地の表面は始めにただ一つであったと見るしてある。(欽定訳英語旧約聖書、創世記十〇二十五参照)。

聖書註解者の中には、ペレグの時代に民族の移動があつて「地の民」がわかれ、民と民とが「領地をわけた」と結論をしている人もあるが事実はそうでない。聖書にはひじょうに簡単にしかしてないが、これはひじょうに重要な出来事を物語っている。「地が分

れた」のは、民族や国民に従って地球上に住む人々が分れたことではなくて「大陸が分裂して」地の表面が東西両大陸に分れたことである。

壁にかけてある世界地図を一見すれば、北アメリカ大陸の海岸線と、南アメリカ大陸の海岸線とアフリカ大陸の海岸線とは各方の大陸が昔一つにつながっていたことを示しているのに気がつくであろう。もちろん、始めから今までに多くの変化が地の表面について起った。われわれは啓示により、いつかこの状態が変わって地の表面が始めのようにみな一つところに戻る時が来ることを知っている。このことは「教義と聖約」第三百三十三章十八・二十節にはっきりと言っている。すなわち、

「その時子羊はシオンの山の上に立たん。また彼と共にその額に父の御名をしるされたる十四万四千の人々共に在り、と。」

「この故に、汝ら花むこの来る備えをなせ。出でよ。出で行きて彼を迎うべし。」

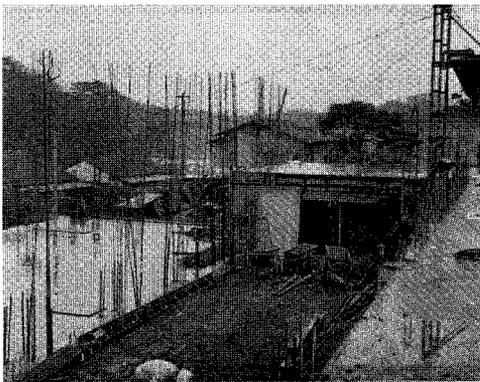
「見よ、彼はオリヴェットの山の上、いと深き大海の上、海の鳥々、シオンの地の上に立たん。」

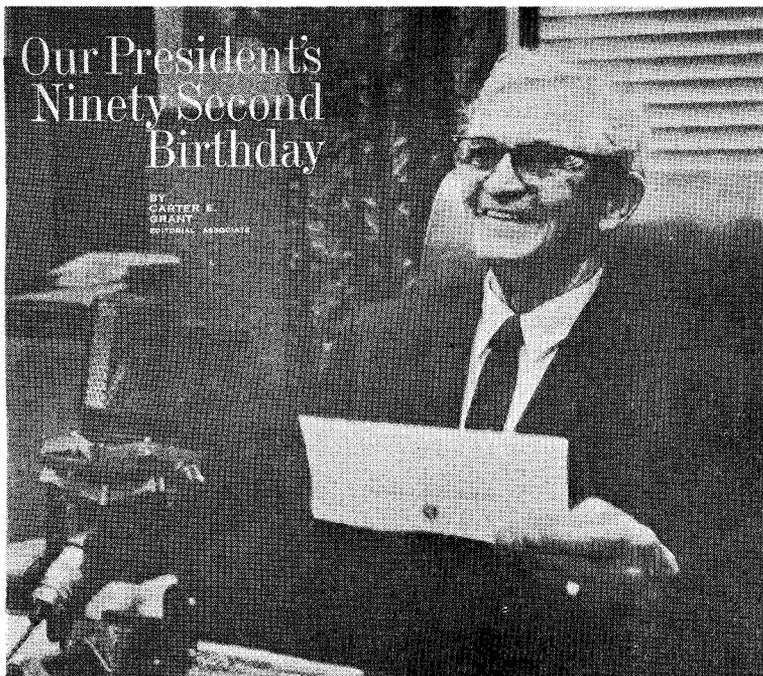
いつ正にこの大変化が起るか、われわれは知らない。しかしながら、もしも地球が始めの状態に回復されるはずであるならば、その時全地のおもては今の大分裂の起ったペレグの時代以前のように一つとなるであろう。ヨーロッパ、アフリカ、およびオーストリア、ニュージールランドを含む海の島々と、太平洋の中にあるその他のところももとに戻って始めのようにつながるであろう。

この大事業が完成される前に、「教義と聖約」にしるしてあるイスラエルの支族にかかわる予言が成就しなければならぬ。「失な

われた支族」が見つかって、啓示に言っているとおり、異邦人の中にいる「失なわれた羊」はシオンへ逃げて来、ユダヤ人は主が命じたもうた通りエルサレムへ逃げて来るであろう。「あがない主」は「王の王」として王座につくために来りたまい「福千年」の偉大な統治が始まるのである。

表紙写真説明 東京南支部に建設中の教会堂千束池の端の閑静なところに忠実な会員の協力により建築は進められている。





私たちの大管長の九十二回目の誕生日

カーター・E・グラント

およそ一世紀前、丁度九十二年前の一八七三年九月八日ユタ州ウエバー郡ハンツヴィルのジエネット・エヴァンズ・マッケイ家に十人子供の三男が生まれました。父親と父親の母を崇めて両親は彼をデビッド・オーマン・マッケイと名付けました。この名は遠く近く、回復されたイエス・キリストの福音が人の心にふれる処、何処においても知られているのであります。

一八五六年デビッド・O・マッケイのお父さんが十二才の時、彼及び彼の兄弟と三人の姉妹はその両親ウィリヤム及びヘレン・オマン・マッケイと共に彼らの故郷スコットランドのカイセネスから七百六十四人の聖徒たちと共に六千哩西方のロッキーマウンテンのシオンへと船出したのであります。大西洋上における四十一日間彼らはひんぱんに襲う容赦なきストームのため、大海の風波に翻弄されたのであります。ニューヨーク州キヤッスル・ガーデンに上陸してから彼らは西方一千三百哩のロッキーマウンテンの集合の地アイオワ市へ向ったのであります。

遂に一八五九年六月十三日ネブラスカ・フローレンスにおいて千哩の試練の旅には貧弱な装備ではありましたがマッケイ家はジェームス・S・ブラウン隊長指揮下の五百五十三名の開拓団の指揮下に入ったのであります。五十九の幌馬車は直ぐ道に沿うて延々一哩余りにのびて行ったのであります。

一八五九年の八月二十九日の夜ウイリヤム・マッケイ及び彼の家族は、ウイリヤム・マッケイと彼の家族は大ソルト・レーク盆地にたどり着きました。ここに少し滞在してから彼らは、四十哩北方へ移ってユタ州オグデンに開拓者の家を建てました。

一八六七年の夏、デビド・O・マッケイの誕生六年前をしてロッキン山脈に鉄道が敷設される二年前に二十五才になったデビド・マッケイは暗褐色の眼の十六才のウエールスの花嫁さんジェネット・エヴァンズ・マッケイを娶り、東方十二哩の景色の好いオグデン河盆地に行つてハンツヴィルに彼らの家を造りました。現在のマッケイ家の直ぐ西側にある丸木小屋のその中でデビドとジェネットは真剣な幸福な共稼ぎの生活を始めたのであります。新家庭をいとなんで六年目に少しその屋敷を広くしたところにジェネットに三番目の息子、デビド・O・マッケイが生れました。

モルモン大隊のジェファーンソン・ハント隊長がハンツヴィルを建てる三、四十年前、ピーター・スキーン・オグデン、ジム・ブリッジャー、ウイリヤム・アシーラーその他多くの猟師、商人、探険家などが集つていた頃、この美しい山間の盆地は、その清流と豊かに実る肥沃の地のため、オグデンの窪地として西部に知れ渡つていたのであります。

ハント隊長の時からこの大きな盆地に、三つの活気ある村、ハンツヴィル、エデン及びリパティが生じたのであります。

マッケイの日記によると七十年代の始めにブリガム・ヤング大管長がハンツヴィル及び周辺の地を訪ねて、これは末日聖徒を育てるに理想的な場所だ、と宣言されたそうです。

大管長の勧告を心から、主の言葉として受け入れてデビドと彼の

妻は四人の息子と六人の娘そのうち八人は成人しましたところの模範的な末日聖徒の大家族をつくり上げたのであります。

教会の記録はデビド・O・マッケイのお父さんのデビド・マッケイはエデンに二年間、ハンツヴィルに二十年間計二十二年間監督を務め、それからウエバ・ステーク部の祝福師となるまで高等評議員になりました。

子や孫、三世四世にわたつてデビド・マッケイはその働らぎによつて心から主の言葉を受け入れていたことを証明しました。

その日、わがシオンを起さんと務むる者は幸福なるかな、かれらは聖靈の賜と能力とを受くるによる。また平和を宣べ大いなる喜びの音ずれを宣べ伝うる者は山の上に在りていかに美しきかな。(ニーファイ第一書一三：三七)

マッケイ大管長はお母さんを真に、山の上の美しい、人と信じてその編集記事に書いておられます。私のお母さんはすべての婦徳をその身につけておりました。彼女は美しく、高貴でありました。そして家庭を夫と子供たちのために最も気持のよいこととすることを彼女は常に目標としていました。そして当然彼女はそれを最高に達成したのであります。(一九五八年五月号、イムブル・ヴメント・エラ三〇三頁)

この素晴らしい母親に生れた長男のデビドが十二才になった時、教会の大祝福師はその手を彼の頭に置いて予言的に予言しました。

主の眼は貴方の上にある

若い時に貴方は責任ある地位のために準備せねばならない。

貴方は広く世界を見るでしょう。

貴方は散乱したイスラエルの集合を助けるでしょう。

貴方は貴方の兄弟たちと共に評議員会の席につくでしよう。

貴方は民を管理するでしよう。

この祝福が与えられてから十二年後に、この青年はスコットランドのグラスゴーの大会を管理したのであります。この同じ地方部を、二十数年前に彼の父が管理したのであります。

マッケイ長老はその伝道中に、主の眼が真に彼の上にあることを証明するに充分な神聖な経験をしたのであります。後年、教会の一般大会でマッケイ大管長はスコットランドで七十人会最高評議員会のジェームス・L・マックマリン管理の下に開かれた素晴らしい宣教師大会について証しました。

私は昨日のように覚えております。その時激しく靈感され、すべての人が主のみたまの豊かにふり注がれるのを感じました。そこに在席した人は皆一つの心になりました。そのような気持を私は未だ曾て感じたことはありませんでした。それは私が今まで、秘かに丘の上や牧場で、熱心に祈り求めていたものの現われでありました。それは私にとって心から求めていることは何時か何処かで答えられるという確信となりました。聖霊は、長老たちがその頬に涙を流すまで、ふり注いだのであります。彼は証しました、その涙は悲しみからでなく溢れたみたまの現れでありました。……一人の長老が証して「兄弟たちよ、この部屋には天使がいる」と宣言しました。

これに対しマックマリン部長は立上って、そうです兄弟たち、この部屋には天使がおります。そしてマッケイ長老に向って彼は予言的に言いました。デビッド兄弟よサタンが妻のように貴方をふりわけようとしていますけれども神は貴方を見守っております。もし貴方が信仰を守り続けるなら貴方は教会の指導的地位を占めるでし

よう。

マッケイ大管長は彼自身の将来についてこの証を知らせた後謙遜に宣べました。

「そこで私は信仰を守ることを決心すると共に一寸考えただけでも私が如何に北スコットランドと南ウェルズで私の祖父及び祖母に回復された福音を説いた長老に負うところが大きいかを覺つて、私の隣人に奉仕したいと言ふ望みが起つて来たのであります。(印象に残る経験 一三一—一四頁)

貴方は広く世界を見るでしよう。誠に祝福師を通じて宣言された主のみことば通り恐らく教会幹部でマッケイ大管長程、世の中とその民を広く見た人はいないであります。また同様に、貴方は幹部評議員会の席につくでしよう。

また、貴方は兄弟たちの間に在つて管理するでしよう。においても一九〇六年四月九日デビッド・O・マッケイは三十二才を以て回復されたキリストの数回の十二使徒に聖任されました。それに次いで他の召しがあり一九三四年十月六日、ヒーバー・J・グラント大管長の第二副管長となり一九四五年ジョージ・アルバート・スミス大管長の副管長となり一九五〇年十月五日、十二使徒会長に任命され、一九五一年四月九日末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に支持されたのであります。彼は今や五十九年間も教会幹部であります。

「共に働く我が愛する兄弟姉妹の皆さん」教会の大管長に支持された後、デビッド・O・マッケイは語り始めました。

「私は私の今のほんとうの気持を皆さんにわかつてもらえるようにお話したいと思ひます。私は皆さんが私の心の中を覗いて、皆さん

ん御自身の眼でこの感じを見られるように望みます。先ず教会の頭と波調を合せなくては如何なる人もこの教会を管理することはできません。彼の神性な導きと不断の靈感なくしては成功できません。彼の導きと彼の靈感を以てする時私たちは失敗しません。私は主のみたまと共にあるように最善を尽すこと皆さんに誓います。(福音の観念 二六一—二六三頁)

。教会の頭と波調を合せ、これらの神性な人々を参照してジョセフ・スミスは宣言しました。世の人に福音を説き儀式を執行するように召されたすべての人はこの世の以前に天国における大会議で予任されたのであります。私は実際にこの職に予任されていたと考えます。(末日聖徒イエスキリスト教会の大管長たる人 教会史 六：三六四)

父アブラハムは彼の記念の書の中に彼が示現のうちに取り上げられ、この地上に来て肉体を受けることを待っている神の霊の子たちとの間に立ったことを記録しております。彼は次のように観察しました。これらすべてのものの中には高貴にして偉大なるもの多くありたり。それらの者について神は宣言しました。これらの者をわが統治者となさん。それから神はアブラハムに向って言いました。汝はこれらの者の一人なり、汝は生れざる前に選ばれたり。(アブラハムの書：三二二—三二三) この世の正しい人たちについて主はジョセフ・スミスに宣言しました。

これらの者は信仰によりて打ち勝ち、御父が正しく且つ真実なる者に皆注ぎたもう約束の聖き「みたま」によりて結び固めらる。

これらの者は「長子」の教会員にして、そしてこれらの正しい神の僕たちがその報いを受けに戻る時は、

その約束は、神とそのキリストとの御前に、いつまでも限りなく住むことであります。(教義と聖約七六：五三—六二)

六十四年以上、エマ・レイ・リッグス・マッケイは誉れある彼女の同伴者の傍に身を捧げて待ったのであります。そして一八九七年八月七日彼が伝道に出發する以前にもまた彼がユタ大学のフットボールチームの一人であった時もまた彼が卒業生総代となった時も、エマ・レイは友人として彼を誇りにしてしたのであります。

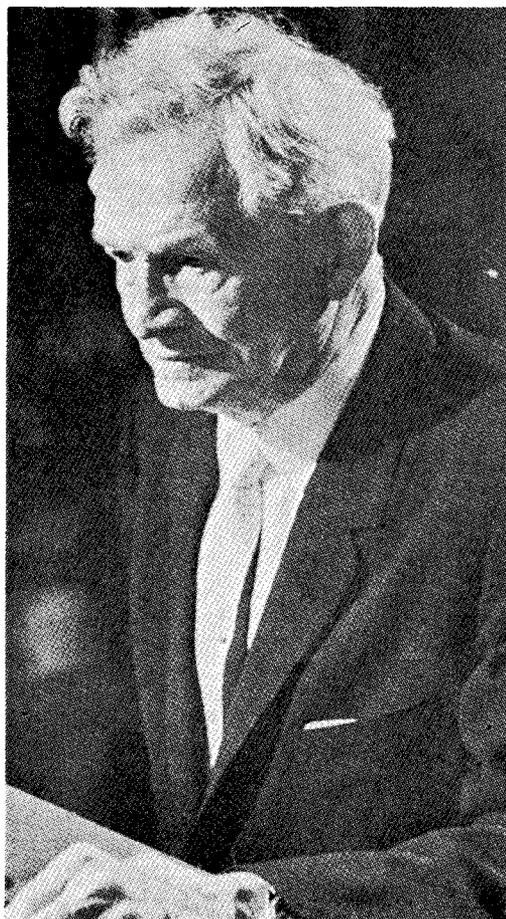
マッケイ長老が、スコットランドにいる間に彼女は彼女のワード部、ステーク部及び家庭に見積ることのできない価値をもたらした特別優秀な音楽の成績を以て大学を卒業したのであります。

来る九月八日の私たちの予言者、聖見者、啓示を受ける者の九十二回目の誕生日に当って、全世界を通じて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は心から第九代目の大管長及びその愛すべき夫人に敬意を表し献身せんとするものであります。

秘 訣 を 持 っ た 人

ノルマン・ヴィセント・ピール

— 1965年3月号ガイドポスト誌より —



先日私はデビッド・O・マッケイに逢って、圧倒的な印象を受けました。私はこの二百五十万の精神的指導者がいろいろな点で私に感動を与えたと思います。モルモン教会の大管長についてよく使われる言葉は、聡明で聖者らしく謙遜でウィットにとんでいるなどがあります。けれども私は何にもまして彼の人生に対する強烈な熱情から暖い愛情を受けました。この資質は誰にあっても偉大ではありませんが、私はマッケイ大管長が九十一才の高令であったことに特に感動を覚えたのであります。彼の明るさはその笑い、樂觀主義、暖かい微笑特に私たちの訪問が終った時の祈りの中に溢れております。

私がソルト・レーク市の彼の事務室を立去ろうとした時彼は私の腕をかかえてお父さんのような口調で話しかけましたがその声は、人間的な友情、キリストの救いの愛、その弟子たることを感謝している讚美歌としか感ぜられませんでした。

※彼のひとがら

後日、私の妻ルツと私がモルモンの指導者を訪ねた時のことについて語り合っている時に私は「彼が今まで私が逢った人で最も幸福な人だと思う」と言いますと妻は興味深そうに、「あのような年令と責任を負っている人は、その偉大さのかけに何か秘訣があるのでしょうか」と言いました。

彼の秘訣!! もしもそのような秘訣があり、私たちすべての者がそれを発見し用いて私たちの生活を彼のように神と共に歩む楽しいものとしたら何と素晴らしいことでしょうか。私はこの秘訣の手がかりはないだろうかと考えました。私は彼の書記のクレア・ミドルミス嬢が二十九年間彼の手として働らいた間、一度もさからう言葉を聞いたことがないと聞いたのを思い出しました。

そして私は数カ月前にマッケイ大管長が一団の人に話をするために演壇に登ろうとした時に階段につまずかれ、はっとした瞬間を思い起しました。人々は息をつまらせました。けれども彼は立上って聴衆に向って抑え難い微笑みを以て、「年をとることは、大変なことだ。」ときびしそうに言いましたが「でも死ぬよりはましだ」とつぎたしました。

私はニューヨークに帰ると何人かのモルモンの友人を訪ねて私は、彼らの指導者についてもっと知りたいと申しました。数日の内に私の机上にはマッケイ大管長の演説集、彼について書かれた書物、彼を知っている人々からの手紙が山積し、その人となりの画像が私の前にかたずくられて来たのであります。

デビッド・O・マッケイは一八七三年九月八日にユタ州のハンツヴィルで開拓者の両親の十人の子供の長男として生れました。彼の人世は伝統的なモルモン教徒の生き方でありました。勤勉、信仰を土台とした家庭生活、定期的な海外伝道、それから始まった教育界での経歴が彼をして教会の最高の地位に導いたのであります。

一べつする方が広汎に描写するよりも、よくその人がらを現わします。

ある時、マッケイ大管長が集会を司会しようとして会場の中を歩いていますと八才か九才ぐらの少女が群衆にもまれながら彼に署名を求めて一生懸命近づいて来ました。彼はそれに答えて彼女の方を向いた時には遮られて彼女は見えなくなっていました。

※

多くもらった

おつり

それは小さなことのように見えましたが、マッケイ大管長にとってはそのうでなかったのです。彼は話を始める前にまわりの人に、「私はあの少女を見つけねばならない」と言って彼女を探し彼女のプログラムに署名するまで、会を進めませんでした。

このように他人のことを心配する例は特に彼自身の家族の間にしばしば見られたのであります。現在ユタ大学の教授であります彼の息子さんのレウエリンはもしもマッケイ大管長の七人の子供さんたちのうちきかない子がいたらそれは私だと申しております。レウエリンは十代の時にレンチを買いにやられ、店からレンチをたずさえてここにこしながら戻って来て、「店の番頭さんはまぬけんぼうで僕に五弗多くおつりをくれたんだよ」と得意そうにお父さんに言いました。デビッド・O・マッケイは一寸息子のことを考えました。

「お父さん、彼らはこんなお金惜しがりやしないでしょう」レウエリンは自らを弁護するように言いました。「あの店はとても、もうかるんだから」

「お前の言うのは、ほんとうだろう、あのお店は五弗なんか惜しがらんだろう。」お父さんは言いました。「けれども番頭さんが家族を養っている給料から五弗弁償したとしたら彼はその五弗を惜しがらるでしょう、そうじゃないだろうか坊や」少年は不平そうにうなずきました。父親は更に続けました。

「けれどもその番頭さんが責任をとらなかつたとしたらそして誰もお前が五弗持っていることを知らなかつたとしてもお前はそれがお前のものでないことを知っている」長い沈黙が続きました。「坊や、正しいことをするかどうか決めるのはお前なのだよ」

レウエリンは翌日五弗を戻しました。父親は法の命ずるままにするのでなくして、若くともその人格を尊重して彼自らが決めるように彼に命令でなく自由の原則を与えたのであります。誠に私がこの人について読み観察した時に、すべて彼がなしたことはこのようにそれが息子であろうとまた始めて逢った少女であろうと他人を考慮し、その意志を尊重することがわかりました。私はこれがきつと彼がその人生にそのようにはつきりとした喜びを見出している、秘訣ではなかるうかと思えます。レウエリンは、彼の父が他人を尊重することはマッケイ夫人に對する態度に最もよく証明されていると書いておられます。

私たちを

兄弟にする

決定的な力が

ある。

誰も一人では

生きられない

すべて他人に

なしたことは

自分に

戻ってくる。

結婚後六十四年にしてマッケイ大管長は未だに彼女が入って来ると起立するのであります。そしてつい最近彼は雨の降りしきる中に彼女のために自動車の扉を開け、彼のもちゃもちゃした頭髮は風雨にさらされたのであります。そのような関心は家畜にまで及びました。彼が旅行に出ているある夜中に家族の者は電報に眼をさまされました。驚いた家族たちが急いで封を開くと、シーザーに水をやりなさい、と言ふメッセージでした。シーザーは彼らが飼っている牡豚で、農家の子として育ったマッケイ大管長は数百哩も離れたホテルの部屋で家畜が無視されはしないかと心配で寝れなかつたのであります。

ある日私は愛する教会員の話に私の質問の回答を見出しました。それはマッケイ大管長がずっと以前から座右の銘として覚えていた、エドウィン・マーカムの四行の詩であります。

私たちを兄弟にする決定的な力があ
る。誰も一人では生きられない

すべて他人になした事は自分に戻って来る。

すべて他人になしたことは、マッケイ大管長の場合、他人を思い、尊重し、愛すること喜びと平和と愛情が戻って来たことに何の不思議がありません。私は二、三年前にソルト・レーク市で起つた私を喜ばせた一つのエピソードを思い出します。毎年七月二十四日に一八四七年のこの日にソルト・レーク盆地に最初に入った開拓者を記念して大パレードが行なわれます。この年にパレードに始めて水泳着を着た女性が幾台かの花車に現われてゴシップをひき起しました。あるきびしい会員たちが大管長に抗議しました。

けれども聖者らしい紳士は完全に根本となるところの讃辞を以て議論を閉ぢました。

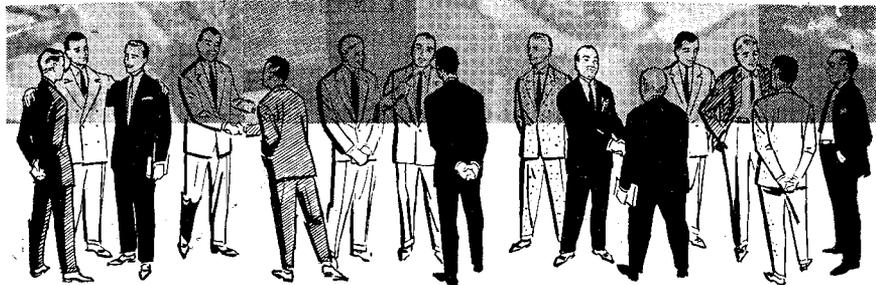
私はあのパレードに、何も美しくないものを見ませんでした。

これが私たちすべてが私たちの周辺に世の中に見ることでないでしょうか。

それがどうあるかでなくて私たちがどうあるかでないでしょうか？ 他人のうちに善と価値と美を見つける。デビッド・O・マッケイ大管長はそこにそれを見つけたのです。これが九十一才の彼の人生をかくも素晴らしいものとしたのです。そしてその秘訣は如何なる年令にも作用するのであります。

教会員の責任

チャーチニュース
1965年9月号論説から



宣教師は、自分たちが教会に導いた新しい改宗者にしばしば次のように言います。教会員になっただけでは、きつと救われるとだれにも言えませんから、教会に入っただけでは充分ではありません、と。

宣教師は改宗者たちに教えて言います。教会員になったら教会の仕事を活発に行ない、教会のプログラムに出て働らき、救われるために文字通り働らなくてはなりません、と。これが「キールモン教」と世の中の大ていの宗教とを区別しているいちじるしい境界線の一つであります。それは「行ない」です。しかし、「信仰」だけでは救われないと同じように「行ない」だけでは救われません。「信仰」と「行ない」とを結びつけなくてはなりません。そのほかには「救い」がないのであります。「救い」ということばの定義がちがっていることが、この点について世の中の人々の教えと、まことの福音との間にいろいろ意見がわかれていく大きな理由の一つであります。

世の中の大部分の人々にとって、「救い」とは天国の光景をたえず驚嘆と畏敬の念をもつてながめている幸福な状態であります。これらの人々は天国において何の進歩をしようとも思わず、何ら到達しようとする目標も持たずに、神をほめたたえることしかししない泰平の喜びしか持とうと思っております。

神さまは、自分の子供たちがほめたたえてさえいればそれでもって満足なさるでしょうか。此世の父母でさえ、口では自分たちをほめちぎるが何一つしてくれない自分たちの子供によい感じをもつてでしょうか。それが現実だったら私たちはどう思うでしょうか。おおよそ子供をもつ父母であつたらだれでも、自分の子供がいつも働らき勉強をし学び進歩をして此世でりっぱな仕事をするようになることを、すなわち人類のためになるりっぱな働らきをすることをねがわない者があるでしょうか。もしも私たちの子供らがぶしよう者で悪いこともしながりとして善いこともせず、こうしておれば自分たちの要るものは何でも父母がくれると思つて父や母におせじたらだらであつたとしたなら、私たちは彼らをなまけ者で親のすねかじりであるときめつけることでしよう。霊についても私たちが同じような状態であるとしたら、主なる神さまも（此世の父母）と同じことをお思いになるのではないのでしょうか。とにかく「救い」とはどのようなことでしょうか。それはイ

エスがお教えになったように「天にまします私たちの父なる神のように成ること」なのです。イエスが「それだから、あなたがたの父が完全であるられるように、あなたがたも完全なものとなりなさい」とお言いになったことばの中には大いの人々が思っているよりはるかに深い意味があります。

それは、仕事をせよ、働かけ、勉強をせよ、努力をせよ、そして実行をし、発展をして「神が神たる所以（ゆえん）」の「特質を一つのことら身につけよ」という御ことばであります。イエスはヨハネによる福音書の第五章十七節で「わたしの父は今にいたるまで働らいておられる。わたしも働らくのである」と言っておいでになります。

それは何か物がもらいたいような考えではできません。ほんとうに、それはだれかが「ぎんげの席」で「わたしは信じます」と言ったくらいでできるはずがありません。そして宣教師が、自分たちの新しい改宗者たちに、教会の仕事をしなさい、教会のいろいろな組織が行なうプログラムに出て活発に働らきなさいとすすめるとき、そのことばの奥にある深い意味はこれなのです。

ある意味で、教会は私たちが「救い主イエ

ス」の仰せになっている「完全」に達することのできる一つの「なかだち」であります。教会は私たちに仕事を与えます。教会は私たちに、技師や医師や法律家や実業家をつくる大学と全く同じように私たちが進歩をするプログラムを与えます。

この教会のプログラムをまじめに実行するならば、私たちの内部にキリストのような特質をほんとうにつくり出すことができます。しかし、何か物が欲しいような考えで行なうならば、何の特質も身につけることはできません。それは骨おってはたらき、善いことをくり返して行ない、りっぱな実績をあげることも必要です。

あるときマッケイ大管長はこの問題を論じてほかのこととしよに「わが教会の会員が一人のことらずひきうけなくてはならないこの責任とは何であるか。私は「教義と聖約」の第一百七章を開いて、そこに神権者の組織するいろいろな組織の義務が列挙してあるのを見る。また私はその九十九節に「この故に、今や神権者みな各々その義務を覚え。また己が任命せられたる務めを全く勤勉に勤むべし」とあるのを読む。「その戒めの中にはこの啓示が与えられた役員たちのためさねばならぬ

こととして二つの原理が光っている。第一は覚る、すなわち自分の義務が何であるかを知ることであり、第二はその義務を遂行するに当って全く勤勉に行なうことであること。

「自分の為すべきことを知りながらそれを行なわない人は、自分をいつわっているのである。その人は兄弟たちに対して不誠実であって神と良心の光に従って行動していない」と言っておられます。

まことに福音こそ「命の道」であること、すなわち福音こそ私たちに神の特質を身につけることを教える道であり、福音の原理を実践し福音のプログラムに参加して始めて「わたくしたちの天の父」のようになるために必要な「完全」があらわれてくることを、すべての人が覚らなくてはなりません。不活発であると私たち自身の進歩がとまってしまう。活発に参加するならば私たちの精神も、肉体も豊も発達します。

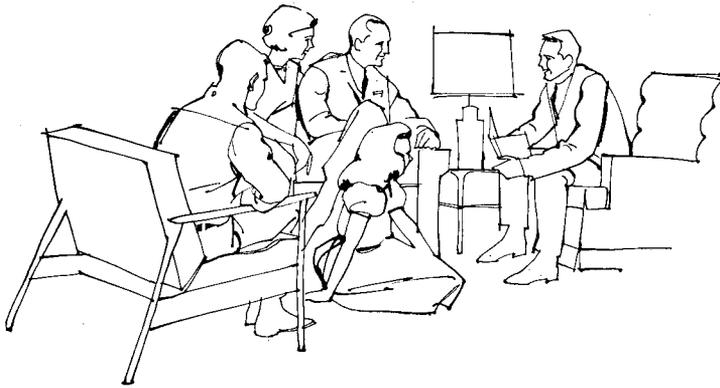
つまり私たちは「神の子ら」でありますから「神のように成る」機会をもっています。しかしながら一瞬間にそうなるような「呪文（じゅもん）」はありません。「完全に達する」には一生涯うまずたゆまず努力精進をすることが必要であります。

実行する必要があるでしょうか？

多くの人が将来彼らの懐いていた宗教的な観念が価値がなく、救いに関する限り彼らに何らの、よい結果をもたらさないことに目覚めるでしょう。

モルモン教徒、ユダヤ人及び異邦人たちは皆同様にこの範疇（ちゅう）に入ります。何となればすべての信仰者のある者たちは救われない観念を持っているからであります。

あまりにも多くの人がロータリクラブやクワニズクラブの会員が毎週午餐会の席を保証



されるように単に教会の会員であれば天国における席が保証されるであろうと考えております。

実際に数百、千万の人がクリスマス及びイースターに教会に行き、彼らの一年間の宗教的義務を果たしたと考えております。また他の者は更に良心的に、規則的に日曜日に出席して、彼らは至高者に忠誠を誓ったので至高者はそれに満足され彼らは安心して世の中のことができると感じております。これは口唇を以ての神への奉仕であります。

このような人たちは教会の会員であることをクラブまたは他の社交団体の一員であること以上に重要には考えていないのであります。

神は、ほんとに口唇の奉仕を以て満足されるでしょうか？

信頼のおけるカリフォルニア大学の社会学部の観察によるとアメリカにおける殆ど半数のクリスチャンがそのような考えを持っております。観察において質問されたプロテスタント教徒の四十八%が救われるために善い行ないをせねばならないと信じていないと答え四十三%のカトリック教徒がこれに同意しました。

プロテスタント教徒の四十五%が救いに祈りが大切であると信じておらず、カトリック教徒の四十六%がこれに同意しました。

言いかえれば彼らにとって宗教は、火星人の存在を受け入れるように知的に受け入れるところの心理学的なある何物かであり、それについて何も為す必要がないのであります。

この理由の多くを容易に見出すことができます。そのような間違った考えを正しくする神性な教えは聖書の中に安全に保存されてあります。けれども幾人の人がそれを読むでしようか？ ある者は無知な祝福であり賢くなることは馬鹿らしいと考えているかも知れません。また聖文を知らなくても幸福であるのに何故聖書の中に安定した教えをかき起す必要があるうかと。

多くの会堂において説教者自身、なかなか聖書を信じられずにおります。そしてある者たちは彼らが信じられないのにどうして我々が信じる必要があろうかとたずねます。そして聖書に代る読み易い解説書やミサ典書や祈り書やキリストの生涯の映画などがあるのに何でわざわざ聖書をひもどく必要があろうか？ これらの読み易い書の中に十分に宗教があるのではないかと、

人は無知では救われたいと言う予言者、ジョセフの宣言は何と決定的でありましようか。

福音を学ぶことを故意に拒んだかあるいはその他の状況によるにせよ、何れにせよそれは無知であり救いを阻むものであります。

光、知識及び英知は救いに導くものであります。けれどもそれはただ働らきと言う道を通じてだけであります。すなわちよく行ない、よく在り、神の口から出るすべての言葉に従うことであります。

人は神に仕えることなくして救われるでしようか？ よく行ないよく在らずして神に奉仕できるでしようか？ もしよく行なわずよく在らずして救われるとしたら第二の誠命の要点はどうなるでしようか？ もしも祈りが主の弟子たちにとって価値がないものならばキリストがゲッセマネで天父に祈った模範の価値はどうなるでしようか？

モルモン経の中で私たちは同胞のために務めるのは神のために務めるのであると教えられております。これは偉大な真理を教えております。ヤコブが行ないのない信仰は死んだものであると言った時彼は、はつきりとした事実を強調したのであります。

主が宗教を安易に考えている者に対し、教義と聖約の中で言った言葉は忘れることができないのであります。

またこれらの者は、……人間の巧智によりてその眼を暗まされたる者なり。

これらの者はキリストの証をなすに雄々しからず、この故に彼らはわれらの神の王国の冠を得ざるなり。

また他の場合に主は言われました。

われ誠に汝らに告ぐ、人は務めて善き業に従い、多くのことをその自由意志によりて為し、多くの正しきことを為し遂げよ。

されど命令を受くるまでは何事をもなすことなく疑いの心を以て命令を受けこれを不精不精に守る者は救われず、(教義と聖約五八二七、二九)

イエスは善き業を為そうとされたのであります。私たちの目的は彼の如くなることであります。私たちが行なうことまたは善くなることに失敗したら彼の如くなれるでしようか？、天の父が完全であられるように、完全な者となりなさい。そしてこれは努力なくして為されないのであります。人格は徐々に形成されるのであります。私たちは一足とびに天に達することはできないのであります。

American Mother



(フレッチャー夫人)

アメリカの母

ドロシー・オークレイ・レア

。經驗をつんだ母たちとして私たちは全力を尽して若い母たちが家庭は神聖な場所であり家庭に在って成功する母親となることは世の中で最も責任ある仕事であることを自覚するように助けるべきであります。

これは去る五月三日に本年度のアメリカの母に選ばれましたユタ州プロヴオ市のロレナ・チップマン・フレッチャー夫人がニューヨーク市で行なわれた指名式中にワルドルフ・アストリヤホテルで述べられたメッセージの一つであります。

これはユタ州から末日聖徒がこの誉れあるアメリカの母に指名された二度目であります。十年前にブリーザント・グロヴのラヴィナ・フガル夫人がアメリカの母に指名されました。フレッチャー夫人の一番のファンはハーヴェイ・フレッチャー博士であります。有名な物理学者であり科学者であって自らを、本年度アメリカの母

の秘書であると喜んで申しております。

フレッチャー夫人の誉れあるプログラム進行中、ブリガム・ヤング大学において何か感想をと言われた時彼は私はただ「アイ・ラブ・ユー」の三語を申しますと答えて、蘭の花を彼女の肩にとめてやりました。そして後援席には六人の著名な息子さんたち。

ニューヨークのウイリヤム・ケネス（フィリス）フアーメーラ夫人、ニュージャージー、ステツフェン・H、ソルト・レーク市、ジエームス・C、ニュー・メキシコ、ロバート・アルバクオーク、ユタ州、プロヴオ・ハーヴェイ・I、カリフォルニア、パウロ・パサデナがおりました。

アメリカ母親委員会長のドロシー・ルイス夫人がフレッチャー夫人の本年度、アメリカの母の指名を発表した時、ユタの母は言いました。

「私は私の子供が皆、ここに来ることを望みます。彼らのおかげで今日の名誉を得たのです」

彼女の希望は実現しました。フレッチャー夫人が教会幹部及び教育指導者から称讃を受けている間にフレッチャー家の全家族は再会したのであります。

この家族的な祝賀に大管長会のヒュー・B・ブラウン副管長及び夫人、十二使徒会のマリオン・G・ロムニー長老、七十人会最高評議員会、S・デイルウォース・ヤング長老、教会の扶助協会長ベル・S・スパッド及び副会長のアリアン・C・シャープ、ブリガムヤング大学総長エルネスト・L・ウイルキンソン方でありました。

「これはニューヨーク市におけるユタの日のようだ」と新聞は報道

しました。

よき妻となり、母となり、主婦となるために、若い女性のために何か助言を頼まれてフレッチャー夫人は家庭建設の理想を次のように述べました。

「貴方の子供たちの父親として、よい夫を選びなさい。貴方がたは男性が選ぶと思われるかも知れませんがすべての女性は正式な結婚の申込みよりも、もっと上手な申込ませる方法または手段があることを知らねばなりません。遺伝と言うものが子供たちの生涯を決定する大きな要素であることはよく知られております。結婚を求めめる若い女性は、彼女自身の遺伝についてはどうすることもできません。ただ彼女が良い両親及び祖父母を持った場合感謝するだけであります。けれども彼女は良い両親及び祖父母を持った夫を選ぶことによって、期待される彼女の子供たちに何らかの貢献ができるのであります。

ロレナはユタ州のアメリカーン・フォークでステッフエン・L及びシナ・ネルソン・チップマンの娘として生れました。彼女の祖父のジェームス・チップマンは一八四七年にモルモン開拓者たちと共にユタに来た一人でブリガムヤングが到着して三カ月後に着いたのでした。ジェームスはユタ州の最初の出納局長になりました。彼はアメリカン・フォークにチップマン商会を建設しました。ロレナの父は祖父の後を受け継いで二十五年間、会社の支配人でありました。ステッフエン・L・チップマンは最初のアルパイン・ステーク部長で長年務めました。彼は死ぬ時はソルト・レーク神殿長でありました。

ロレナは子供の時は兄弟のステッフエン・ハウエル及び姉妹のカー

ール・エイリング夫人、A・レイ・オルピン夫人、ヴァージニア・ムルドック及びレア・ヴァン・ヴァグネン（後の二人はすでに死亡）エイリング夫人は回想して申しております。ロレナは常に不動の信仰を持っておりました。何か問題が起った時に祈るように最初に私たちに教えたのは彼女でした。

ロレナは母親から明朗な性格をうけ、むずかしい家庭環境を笑いに変えるようなユーモアを持っておりました。

お母さんは決して子供たちにあまりむずかしそうな顔をさせませんでした。エイリング夫人はこう申しました。

チップマンの娘さんたちはアメリカーン・フォークの旧い家を覚えております。それは屋根に尖塔があつて古城のような感じでした。ステッフエン・L・チップマン夫人は夫に

「これは近代的にする必要がありますと告げました。彼から軽い反対を受けた彼女は、

「もし扶助協会の女性たちが尖塔を降ろすべきだと言ったら貴方はどう言いますか？」

ステーク部長はチップマン夫人と共に固く立つ女性たちによって負かされてしまい尖塔は崩されました。

フレッチャー夫人がブリガム・ヤング大学の女性たちによってユタの母に指名された時、子供さんたちが皆、賛辞を書きました。

「私は子供たちが幼い頃からよく覚えていたことに驚きました。彼女は言いました。

フィリス・ファーマー夫人はもし教育を続けていたらもっと高い位を得ていたでしょうが数学に修士号をとりその後優秀な妻、母主婦となつたのであります。

(ハーヴィーとの結婚当時)



彼女は言いました。

「お母さんは精神的にいつも若いでした。彼女は友を選ぶのに年令の相違を少しも気にとめませんでした。」

ステツフェン・Hは言いました
「彼女は常に私たちを實際よりも、よく見ておりました。このことが私たちをして彼女の期待にそうように務めさせたのでしよう。」
彼はニューヨークにおける西部電力会社の副社長であります。

ジェームス・C・フレッチャー博士はユタ大学総長であります。先に彼はカリフォルニア州エルモントの宇宙総合会社の理事長及びカリフォルニア州アズサのジェット・システム総合会社の副社長であります。彼は言いました。

「お母さんの人として最も秀れた点は助けを必要としている人に対しての同情と関心でした。この関心は簡単な実際的な必要に示されました。」

七人の父親でニューメキシコのアルバ・クォーキー市のサンジャ会社の副社長のロバートは書いておられます。

「お母さんが私たちをしつけるのにきびしくて競争心の強い子供たちにとってよく私は、不公平な取り扱いをされているのではないかと感じられたりしたのですが、それにもかかわらず私はいつも彼女が私たちに最大なる関心を持ち、私たちに最も期待していることを

感じました。」

BYU大学の数学教授で、また三人乗月ロケット目標、合衆国アポロ計画に積極的なハーヴェイ・Jは母親について書いておられます。彼女は私たちがすべてに美の鑑賞、奉仕の精神、教会、国家及び友人に対する忠誠心をしみこませました。私たちの両親は私たちに祈ること、神に信仰を持つことを教えました。これらすべてが今日の私たちの生活を形造るのを助けたのであります。

カリフォルニア州パサテナ電光システム・クワンタム物理学の技師長パウロは言っております。

「お母さんは私たちに家事の基礎的なものを学ぶように主張されましたがその知識は私たちの独身期間中を通じて役に立ち、私たちが有用な夫及び父親としたのであります。彼女は彼女の子供たちは音楽、芸術及び人生におけるすべての立派なものに有能でなければならぬと主張しました。」

ロレナ・フレッチャーは子供の教育に非常な関心を持ちました。彼女はクラスで抜群の成績で八年生で卒業、総代に選ばれたのでした。彼女は高等学校、大学に進み教師になる準備をしました。卒業した時、教師の職を選ぶ代りにハンサムな有望な青年ハーヴェイ・フレッチャーの求婚を受け入れたのであります。彼らは汽車でシカゴに新婚旅行に出かけたのですが五十名の学生が同行したのでした。到着して彼らは蒸気機関車の石炭の煤煙と灰にすすけた顔を見合って大笑いしたのであります。

妻に伴われた若い科学者の学生はシカゴ大学で博士号を受けたのであります。それから彼は多くの名誉ある位、メダル、感謝状を受けたのであります。彼は立体音響の創始者として認められました



フレッチャー夫人が誉れの冠を受けた母の日、ニューヨーク市における晴の家族再会。前列はハーヴェイ・フレッチャー博士及び夫人並に娘さんのフィリス・ファーメージ夫人、後列は有名なフレッチャー兄弟たち。左から「ロバート」「ハーヴェイ・J」「ジェームス」「ステッフェン」「パウロ」

彼はBYU大学物理工学部長を名誉退職しました。彼は一九一六年から一九四九年迄、ベル電話研究所に従事しました。

フレッチャー夫人は家庭に夫に家族に仕えたばかりでなく、何処に行ってもその社会、学校、及び彼女の教会に非常な貢献をしたのであります。彼女は、与えることは受けることの理想的な道であると信じております。

ハーバート・フーヴァー夫人は曾て彼女に言いました。「母親は教育と奉仕のために家庭外に出るべきであります。そこで彼女はその経験を彼女の家庭を富ませるために用うべきであります。」

若い母親たちへの勧告を要約してフレッチャー夫人は言っております。

「家庭において子供たちに影響を及ぼす最大唯一の実体は恐らく愛でしょう。両親は単に子供を愛していると言うだけでなく常に愛を行為で示さねばなりません。」

愛の要素は親切、寛容、やさしき、謙遜、丁寧、無私、あなたにき、誠実及び正直であります。

子供たちは忠実さを教えられるべきであります。幼い時から彼らは家庭で為すことまだ為すべきでないことを知るべきであります。この家庭の伝統に反することは軽視できない不忠実さであります。

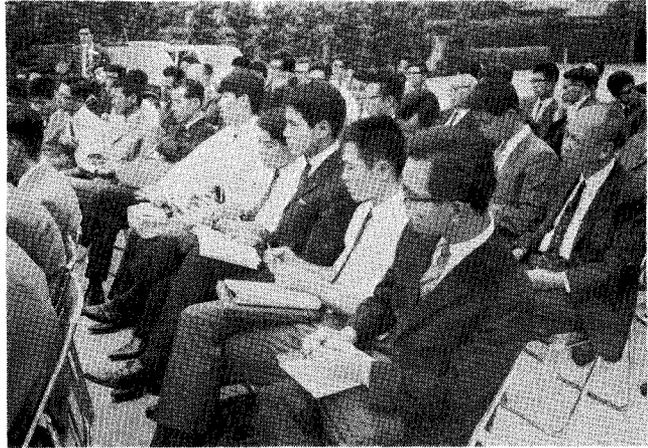
子供たちが自分は家族の一員であり、その中で重要な役割を果していると感じるように助けてやるべきであります。

共に祈りなさい、家族中で祈りなさい。

幼児から十代を通じて子供たちのゲーム・ピクニック及び遠足に参加しなさい。

東中央地方部

秋季大会開かる



会場は狭いために屋外で長老定員会の
集会は開かれた。

ファイアサイドと盛大に進められた。

二日間の大会を通じ各自の霊的成長をとげると共に会員相互のフェローシップを盛り上げて大会の幕は閉じられた。

主たる内容は大会二日目における神権会、一般大会に要約された。

十二日九時半より礼拝堂に入った神権者の顔は輝いて生々としていた。神権会は定刻に始まり小松新伝道部長のあいさつの後、分級されアロン神権会とメルケゼデク神権会となり十一時各クラス毎閉会した。扶助協会も同時にホールにおいて行なわれた。

十一時三十分礼拝堂とホールを開放し一室とした中に会員はあふれんばかりに入場し後の舞台にまで椅子をならべることとなった。

十一時三十五分一般大会午前の部は柏倉第二副地方部長の司会のもとに進行した。先祖を日本の地にもつ小松部長御一家の紹介があった。小松姉妹の身のあたたまる、感激した挨拶のち小松伝道部長の広島弁のまじったユ

ーモア一あるそして、新時代への結束を約束したお話しがあった。お話しの間会場をいっぱいにした会員の目は部長の熱のこもった目に、耳は全てを話の方向へむけ一言をも聴き逃がさじと集中していた。そして会員一人一

小松伝道部長を迎えた初めての大会は、九月十一日、十二日(土、日)に行なわれた。

会場は東京西支部で、北からの山形支部をはじめ南の横浜支部までの兄弟姉妹七百余名の参加をえ場内あふれんばかりの盛況裡に行なわれた。今大会のテーマはエペソ書四章十一

節十三節であり、終始これを貫き進行されていた。そして新時代を迎えるべく、教会の組織の確立強化を各々自身の心に決意された。プログラムは第一日目、

今年七月に催されたハワイ神殿訪問報告会、第二日目、神権会扶助協会、一般大会、

人の親しみを増すのだった。第一部の後半は五名の兄弟姉妹による伝道を終えた強い証詞を通し、人間は幸福を求め、ものであり福音をのべ伝えることの重要性を強く心に刻んだ。第二部は昼食後二時三十分定期通り、

田中地方部長の司会のもとに開会された。第二部は進行の適切に行なわれたことにより本大会の内容が一段とより上り印象的なものとなっていた。お話は東中央地方役員による担当組織の内容説明と方針を中心としてなされた。役員の発表と同時に各支部によるコーラスの発表がなされプログラム編成に苦心のあとが感じられた。一般大会第二部は四時三十分仙台支部阿部順夫兄弟の祈りにより閉会となった。

この日大会のあとホールにおいてニューヨーク世界博覧会の内容をもち込んだ映画、幸福を求める人がファイアサイドの主プログラムとしてなされた。

神様とイエスキリストを知るために神様と隣人を愛し責任を果すために、喜んで時間を使う。

(田中健治地方部長)

一、指導者をます

一、家庭を大切に

一、具体的な話

一、報告と記録

メルケゼデク神権会

武蔵野の閑静な環境にめぐまれた西支部、うつつらと雲間からさす九月の日ざしを背にうけながらメルケゼデク神権会はきれいに刈込んだ垣にかこまれた中庭で開かれた。

山田義郎兄弟(第一長老定委員会々長)の話は九時五十八分から約十分なされた。

神権の祝福について

神権は永遠なるものでありましてこれを使い奉仕をすることは大切なことであります。

マタイ伝二五章一四節に、また天国は、ある人が旅に出るとき、その僕どもを呼んで、自分の財産を預けるようなものである。とあります。そして彼等の主人が帰ってきたとき五タラントをもうけた僕、二タラントをもうけた僕、地の中に預った一タラントをうめた僕の三者がありました。そして一タラントをももうけなかった僕は怠惰なる僕として預けられた一タラントを取り上げられるとともに外の暗い所へ追いやられました。神権者が多く出席して大会をもつことは神からの祝福であります。今私達は神から祝福を受けております。神権とは何か、

神からの権能と権利であります。私は古い。聖徒の道にのった神権についての長官デビッド・O・マッケイのメッセージを思い出します。神権は人に与えられた名誉ではなく兄弟達よ、それは人間の最大の賜であります人が身心を清め、生活にそれが表われる時神権は力となったのであります。

家庭について神権は潜在的な力であり永遠なるものをえるためにそして他人のために奉仕し日の栄へ入ることに神権は行使されるのです。七月ハワイ神殿を訪問された兄弟姉妹は皆、永遠なるものをえて帰ってきました。ここに集る大神権者の授けられた過程はアロン神権、その第一に執事の職につきま。

これは永遠なるものをえる第一歩として最も嬉ばしい時なのです。第二に教師そして祭司を経てメルケゼデク神権の長老となりま。私達はアロン神権者を適切に指導しより早くメルケゼデク神権者となることを手助けしなければなりません。

このあと第五長老員委員会々長相良健一兄弟の近い将来できるであろうステーク支部の過程に果す長老の使命を力強く説かれ各支部の活動を通してステーク支部のために勉強しなければならぬことを参加者(注 第一長

老定委員会七一名、第五長老定委員会四三名) 全員に強調された。

尚アロン神権指導の発表として青少年業績証書の発行を五〇%の方々に、六月末、成人のアロン神権者の全員を年末までに祭司の職へ昇進するよう目標がおかれ、そのための指導者が二十名就かれたこと等閉会の直前行なわれた。

(岩波 信夫)

東中央地方部大会スケッチ

十二の支部が集まって、多くの兄弟姉妹がやって来た。それぞれの歡びを胸に秘めて、互いに見合わず顔と顔、こんなに沢山の素晴らしい兄弟姉妹があると感じつつも、ただ目と目が会って肩と肩とがすれ違ふ、何故か声をかけれない。皆、兄弟姉妹と思ひながらも、しかし久しく会ひし者同志の何んとはほえましいことか、ほほえんで、手を差しのべて、握り締め、その手を通して心が通じ合う、彼等の話は、はずみ熱気をおびて来る。これで良いのだと自分一人でそっとほほえむ、次から次へと多くなつて来る。庭は語り合う同志で花ざかりだった。初秋の一時に咲いた美しい愛の花は、その香わしい匂いを一面にまき散らしその陶醉に誰もが染まった。それは感

情深い私の心がそう思ったのか、かくも麗わしい聖靈が宿っていたのか、崇め多き兄弟姉妹であるが故に父なる神が与えて下さった信仰と恵みの賜物であつたに違い無い。

遠き島にあると云う

いまだ見知らぬ御堂でも崇めうすき

我が心、魅せらるる御靈、いつわりきれぬ

想いは何時も御堂に馳せる

崇め多き兄弟姉妹、神に召されて御堂に

集ひ、崇め多き人々よ、あなたはそこに

何を見、何に触し、何を得た、集えぬ

我等に知らせておくれ、かくも美しき

聖靈に抱擁されたあなたは感激だろうか

歡喜だろうか、それとも言い知れぬ陶醉

だろうか、それら入りくんだ新たな心の

波紋は信仰に生活に永遠に続くだろう。

私もあこがれ、誰もが憧れる神殿、そこ

には何が有るのだろうか、行かずして

誰もがそれを探れるものはない、それ故

に誰もが探らんとするのか!

(坂井 憲友)

地方部大会会員感想

まづ最初に出る言葉は素晴らしいと言う感激の言葉です。特に私をそうしてくれたもの

は、恵まれてハワイ神殿を訪問された兄弟姉妹のお話でした。彼等は沢山の祝福を受けて帰つて来られたのがその中にありありと感ぜられました。またハワイの兄弟姉妹から強い愛を受けて来たことを知りました。私もそのような大きな祝福や愛にあずかりたいと思ひました。これは私ばかりでなく神殿をこれから訪問しようとしている多くの兄弟姉妹な

ら誰でも同じ気持ちだと思ひます。また強い愛と証詞を持ち日本語の話せる伝道部長さんを迎えることのできたのも大きな喜びでした。私達の多くの兄弟姉妹ともわずかな時間ではあつたけれども楽しく過ごせましたし、それを通してお互いを知つたと思ひました。しかし親睦を図るに充分な時間があつても良いと思ひます。兄弟姉妹が多かつたせいか大会場がとても狭く思ひましたし、大きな建物が欲しいと同時に沢山の兄弟姉妹がモルモンとして生活しておることを知りとても嬉しかつた。矢張りモルモンならではという感じが致します。本当に素晴らしい会でした。

(織本かつ子)

(561ページへつづく)



北海道地方部センター建設にはげむ
姉妹たち



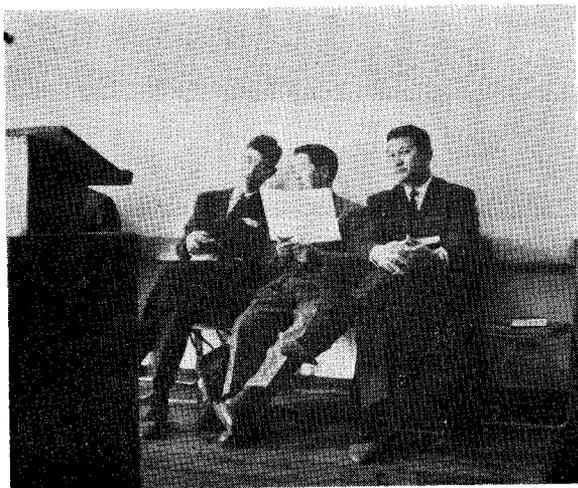
北海道に降り立つ
小松伝道部長御夫
妻を迎える北海道
の兄弟姉妹



大会で讃美歌を歌
う旭川支部の兄弟
姉妹

臨別殷勤寄詞

中有誓両心知



(証詞に聞きいる伝道部長)

北海道地方部九月大会報告

東京から札幌まで、特急で二十時間、急行で二十四時間しかか
る。飛行機では六十分で、北海道の空の玄関千歳に着く。千歳から
札幌まで車で一時間二十分——だから、飛行機で札幌に来る以上
に、時間はかかることになる。——一時間二十分——

しかし、私達は、この時間が二時間、三時間であってもかまわな
いと思った。千歳の米軍キャンプのミルズ支部長の御尽力によつ
て、バスが一台チャーターされ、兄弟姉妹たちは、小松伝道部長御
夫妻をお迎えして、今、弾丸道路を走っているからである。

もう秋の気配が、恵庭の原野に漂い、広島村の稲畑も風にゆられ
ているのが、車窓に迫っては飛び走って行く。風はバスと鋭角にぶ
つかって吹いている。冷たい風である。

つい一時間位前、私達は、空港ビルの屋上で、この冷たい風にさ
らされて突立っていた。北海道の九月ではめずらしくないことだ
が、常夏の国ハワイ育ちの伝道部長さんらは、きつとこの寒さにび
つくりされるだろうと懸念しながら……。

飛行機は定刻通り着き、タラップから多くの人々とともに夫妻が
降りて来られる。ついに、新しい伝道部長、北海道の地に足を……
我らの新しい指導者、日本人の血をもたれる伝道部長が……。

ロビーで挨拶を交わした時、小松姉妹は、

「みんなの手はヒヤイですね」といわれた。

そのさり気ないことばに、手はヒヤイが心はじーんと暖かくなっ
た。

それからの千歳での短かいが、ひじょうに楽しい交歓パーティ。
バスは、クラーク博士が、農学校（北大の前身）の学生たちと別
れて一人去って行った島松をよぎる。この時に、いい残したこと

は、「青年よ大志を抱け」は、あまりにも有名であるが、その真の意味についてはあまりよく知られていない。クラーク博士は、「青年よ大志を抱け、神の王国を築き上げるために」と述べたのである。何十冊もの聖書を北海道の地に携え、時の北海道長官黒田清隆と大激論のすえ、修身の時間に聖書を講義したピュアーマインドの人——

このような種が、豊かにみのつてキリスト教的風土の中に、今、真の教義と組織と儀式をもつ、地上で唯一の神の教会が北海道の民にもたらされ、それが日増しに勢いを増しているのである。

伝道部長は、熱心にバスの中で柳沢地方部長を相手に語り始めた。淳々と権威ある者の如くに……そしてユーモアを交えて……

九月三日（金）は、静かにバスを札幌の夕闇の中に吸い込んだ。

九月四日（土）

一時より、支部長会、地方部長会のメンバーが伝道部長を囲んでゼミナールが開かれた。

同時刻に、藻岩山麓で建築パーティが開かれ、多数の兄弟姉妹たちが参加、地方部センター建設に汗を流した。なお現場へ行く時間を利用してトラクティングが行なわれた。

三時半から五時半まで、伝道部日曜学校会長井兄弟をお迎えして、日曜学校指導者特別集會をもった。

「教師が福音伝道の根幹である」ということが改めて認識させられた重要な集會であった。

六時より八時まで、MIAファイアサイドが行なわれ、福原俊明兄弟（地方部評議員）の指導で歌唱指導が行なわれ、各支部からそれぞれコーラスが発表され、全員が、楽しい雰囲気の中で、すっか

り一つに融合した感じであった。

恐らく地方より来た人々が、札幌支部の会員宅や、宿所に着いた頃、雷雨が激しく地面を叩き、突風が樹木をゆすぶった。

これは安息日のための清めの雨だったのかも知れない。

九月五日（日）

すっかり晴れ上った秋空、きれいに流された町角の汚濁。そして人の心の陰險な綾さえも洗ってしまったかのようなすがすがしさ。夜来風雨、声は、決して、聖徒達の昨夜の眠りを妨げるものではなく、やはり安息日を迎えるためのものだったのだ。

九時より十時三十分まで札幌支部で支部長会、北光予備校では伝道部扶助協会長柳田聰子姉妹をお迎えして扶助協会の大会が開かれた。

若い神権者達に、自分の青年時代を、心からの証詞とともに、朴訥に語られた伝道部長。彼は、そのようにキリストの愛そのものを語られたのである。

一方、シンキング、マザーも結成され意気軒昂な姉妹達は、再び、神権を支持するための姉妹達の重要な役割を心に深く刻みつけていた。

十一時より十二時半まで、一般大会が開かれ、先ず、潟沼第二副地方部長より、ハワイにおけるモルモンの歴史について話があった。詳細なデータと資料に基づいて、現在のシオン建設までの苦難の足跡が浮彫りにされた。これらの資料は、チャーチカレッジ・オブ・ハワイの教授である Alvin 兄弟が、わざわざ送ってくださったそうである。

続いて、松下泰洋第一副地方部長より、ハワイにおける経過報告

? がなされ、強い証詞とともに、次回の訪問希望者に強い感銘を与えた。

最後に、柳沢地方部長より、神殿訪問の意義についてお話があったが、我が末日聖徒イエスキリスト教会のみがもつこの素晴らしい特権を多くの人々が受けることができるよう、準備されることを強く呼びかけた。

一先づ、ハワイ神殿訪問についての報告がなされた後、小松姉妹と小松伝道部長から、メッセージがあったが、伝道部長は、最初英語で話されることになっておられたが、なまのまま（日本語）でお話された。

とても感銘深いお話で、会堂はみたまに満され、涙する人々が多かった。

押せ肩の力もて、歌いて義務を果たせ

人みなたゆまず車を押せよ、

閉会の歌は力強く響いた。それは心の底から歌われた祈りとなつた。

二時から四時まで、証詞会がもたれた。神殿訪問者の証詞が力強かった。また、若い兄弟姉妹たちが、生活を通しての着実な証詞を立てていた。この人々を見よ。若い魂が、この瞬間に躍動しているのを。彼らは、日本の多くの若者が身をゆだねる放恣や怠惰や不潔や快樂と戦い、思索と実践と祈りと愛によって、今、次々に神を証明しているのである。

彼らは、打ち勝ち、そして、これからも打ち勝つ。

主の愛を知りてはすべてをゆだね

心の誠つくさん み心のままに

この歌が、結局、全員の証詞ではなかったであろうか。時は、すべての思いを過去へと運び去る。月日は百代の過客にしてと歌った俳聖の言葉は、当を得ている。しかし、モルモンは、運び去られるであろう思いに感傷的にはならない。

また、時があるから、時、時、永遠があるから……。

両日四十八時間の大会の思いは、最早、昨日になり一昨日になった。しかし、彼らは満ち足りて明日を迎える。

(瀧沼誠二兄弟)

(557ページよりつづく)

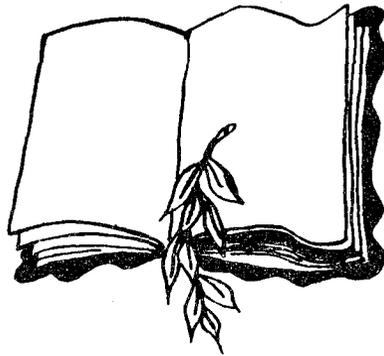
感激で胸が一杯です。犠牲と時間を費して大会に集ったかいがありました。活発な兄弟姉妹を見て、会って本当に強い証詞を持ちました。私もこうした素晴らしいモルモンの一員であることを新たに知りこんな嬉しいことはないと思います。新しい伝道部長さんにも会えたいし、多くのハワイ神殿訪問者のお話も聞きました。私は多くの証詞を身につけることができ、此の二日間でもとも成長したような気がします。今後、私達が生活する上において、これらのことを生かして立派に日々を送って行こうと思っています。

(尾形姉妹)

(なお西中央、沖縄地方部からの投稿がありませんでした。)

マルコ伝十五章三十四節

石川善次郎



初めに

聖書の言葉を解釈するのは、その文体が平易であるのに反して、非常にむずかしい。その理由は、第一に聖書が書かれた時代から永い時間が過ぎていふことであつて、考古学的に、または言語学的に難解ならしめて

いるのであろう。第二に聖書と言う書物の性質が、人間の非常に高度な精神面—少なくとも現代の人間は先天的にエゴイストであり、同時にヒューマニストであらうと思うが、その後者を高度な精神面と言おう—にのみ訴えようとする書物であるからであらう。第三にイエス・キリストによつて語られた神様の福音が何人かの複数人によつて書き記されたと言ふことが、それを難解ならしめることもある。

多くの聖書学者のうちで、とりわけマルコ伝を手がける者は少ないと言ふ。中でもマルコ伝十五章三十四節は難解中の難解であると言ふ。ですから、私は到底解釈できないと思ふ、またそうすべきではないとも思ふ。だが、私の事實はモルモンであり、神様の眞の福音の信仰者であることです。故にモルモンとしての考え方、見方を持つとする者として、以下はできるだけ客観的、一般的たり得たいと務めつつ私独自の考え方を述べたものです。

一、マルコについて

問題点マルコ伝十五章三十四節の言葉「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」は、マタイ伝二十七章四十六節に、またルカ伝にもそ

の様子が記されている（ルカ伝二十三章四十四）が、ここで、この言葉を解釈するに当り、マルコ伝を対象とします。

マルコ伝の著者は、尹小ネ、マルコ（使徒行伝十二章十二節・十五章三十七〜三十九節）と呼ばれる人であらうとされている。マルコと言う名はコロサイ書四章十節、ピレモン書二十四節・テモテ後書四章十一節等に出ている、ペテロと親交があり、パウロと共に伝道したことも伺がわれる。

マルコ伝の特色として、新約聖書のうちで最初に書かれた福音書であり、それは、オラム語で書かれた、と言ふことを上げることができる。また、マタイ伝ルカ伝はマルコ伝の影響を受けたであらうとされている。

故に私はマルコ伝を全面的に参考とした由です。

二、答えられざる祈り

私たちは聖典中にしばしば祈るように勧告を受けている。（マタイ伝二十一章二十二節・エレミヤ記三十三章三節・アルマ書三十四章十七〜二十七節）しかし、祈りは必ずしも「然り」と答えられるとは限らない。

祈りは神様の目にそぐわねばならない。神様は祈りに対して、ある時は「然り」と答

え、ある時は「否」と答えられる。私たちに
はその答えが「否」であった方が、終局にお
いて人のために良いと思われる場合もある。
また、その答えが「然り」である場合でも一
度の祈りで聞かれぬこともあるであろう。

(ジョセフ・スミスの見神録二十六頁) イエ
ス・キリストはゲッセマネで「アバ、父よ、

父には能わぬ事なし、此のさかづきを我より
取り去り給え。されど我が意のままを成さん
とにあらざり、御意のままを成し給え。」と祈
られた。主イエスの祈り「このさかづきを我
より取り去りたまえ」は答えられざる祈り
であった。しかし「御意のままを成し給え」と
祈られたことは答えられた。故に、主イエス
の苦禱は答えられたと言えるのではなからう
か。

三、イエス・キリストの神性と人間性

イエスがキリストであるとは予任である。

そして主イエスは、御自分がキリストである
ことをよく知っておられた。(マルコ伝九章
三十一節・十章四十五節・十一章二・三節)。

不完全な私たち人間がこの現世で生活する
目的は、幸福を得るためである。(第二二一
ファイ第二章二十五節・アルマ書三十四章三十
一・三十二節) 換言すれば、永遠の生命を

得ること。神と共に住むこと。日の栄光
の最高の位に入ること。(すべて同義語)で
ある。そして幸福を得るためには、人間は試
練を受けなければならない。そしてまた、試
練のうち勝つには忍耐が必要で、私たちは
福音を忠実に踏み行なうためには、誘惑に耐
えねばならない。

主イエスは神性を持っておられた、と同時
に人間性をも持っておられたと思う。それは
少なくとも一人の人間としてこの世に生活し
たことは、主イエスがそれだけなりとも人間
であった。そして人間性を持つものとして生
活するためには、迫害に耐え忍ぶ力が必要で
あった。主イエスにあって忍耐力は私たちの
如き微弱なものではなく、かの四十日間の荒
野でのサタンの誘惑(マルコ伝一章十二・十
三節、マタイ伝四章一・十一節)にうち勝つ
た如く非常に強く、人の極地を遺憾なく闊歩
した。主イエスの現世の生活は、一人の人間
として嘲りを受け、迫害を受けて忍耐力を養
う場であったとも思う。

※主イエスキリストを指して、一人の人間、
と云うは、誤解される向きもありま
す。それは主イエスの人間性を強く言い表わ
したものです。

四、ゲッセマネの祈り

主イエスは神様の御愛により、にがさか
ずきをかわすことはできなかったが、その苦
痛を堪えることができた。その苦痛たるやい
かばかりか、想像すらできないことで、次の
言葉に胸がさける思いです。「その苦しみた
るや、われ神、すなわちすべてのうち最も大
いなる者なりといえども痛苦のために身をふ
るわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身
と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦
ささかづきより吞まずしてしりごみするも可
ならんことを欲したり。」(教義と聖約十九章
十六・十八節) これ程まで苦しめばならな
かったのはなぜか。

(一)、主イエスは、この世が末日に至るまで
罪によってけがれ、人々の不信仰と墮落によ
ってけがれることをよく知っておられた。そ
の罪故に「わが心いたく憂ひて死ぬばかりな
り」(マルコ伝十四章三十三・三十四)と言
われた。

(二)、主イエスはこの世で生活するに当り、
自由意志を与えられた。しかし「我が意のま
まではなく、御意のままを成し給え」と祈ら
れた。それは主イエスはゲッセマネの苦禱に
おいて、父なる神の決断が己の自由意志の決

断と成したもうまで折り、且つ戦い給うたのである。そして、主イエスの死は、神様が人間を愛し給う最も深い決断であると理解される。

このようにして到底尽せ得ない痛苦の末、主イエスは今、御自身キリストとして十字架に上がることを喜んでその身に受け、人類の罪の贖ひのために十字架上の死をとげること認めた。

主イエスの痛苦はゲッセマネにおいて終りをとげた。ゲッセマネの苦禱により、主イエスは、神性の極地を悟り、御自身の成すべき業を覚えた。そこにはすでに人間イエスはなく、堪えて得た平安があり、そしてその瞬間主イエスの神性が最も深く覆った時である。

五、エロイ・エロイ・ラマ・サバクタニ

主イエスはギリシャ語とアラメイク語の入り混じった言葉を使っていたと思われる。問題点であるマルコ伝十五章三十四節の言葉は、その入り混じった言葉である。

この言葉を思うに当り、重ねて言わねばならないのは、この言葉は聖書の中でも難解中の難解とされていることです。聖書学者間にあっても解釈はまちまちで定まってはおりま

せん。ここに一例を上げます。

「これは肉体的苦痛よりの救援を求むる叫びではなかった。それは天における神の明らかな敗北と世におけるサタンの明らかな勝利とを悲む靈魂の叫びであった。神は真にイエスを見棄て給うたのか。世をその罪に見棄て、宇宙をその運命に見棄て、かくして罪を負う者（イエス）を助け給うか、あるいは己に罪なく、ただ刑罰の代受としてののみ十字架に懸り給うた御子を、その刑罰のうちに見棄て給うかは、全く神の御意志のうちにあった。而して御父は御子が選決してみ給うた如くを選決して給うた。「ラマ・サバクタニ（何ぞ我を見棄て給ひし）」は、世を、また若し附言し得られるならば天をも、救った犠牲の本質であったのである。」(ピアソン著「キリストの十字架」二百六頁)

徐々に解決しながら来ましたが、次に述べるのが私の見解です。

神様の独子である主イエスは、よく神様を知っており給うて、自からこの人間の世界で肉となって生活し、完全なお方でありながら神様への従順を学ばれた（ヘブル書五章七～十節）。その御子イエス・キリストは、ゲッセマネの森で完全に肉の苦惱を離脱しその身

は神様は最も近く、その心は理知と愛に覆われて、どこまでも澄んで清く平安であった。

その心は父なる神様を自己の全霊を持って愛され、その意は何言わずとも自己の自由意志によって神様に従いたもうた。その極めたる祈りの言葉が十字架上で神様に捧げ叫ばれたのです。「わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひし」と言うは、恰かも冷たいものに触れて熱いと言う如く世の事象の限界を極めるに似ている。「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」この言葉こそ主イエスがこの世を去る最後に父なる神様へささげた祈りであり、讚美である。そしてこの言葉は神様への讚美の言葉として歌われた詩篇と一致していたのです。（詩篇二十二篇一節）。

六、最後に

(一) 佐藤龍猪兄弟の助けに感謝致します。

(二) 文献として

ピアソン著「基督の十字架」
ヒンクレイ著「ナザレのイエス」

M・リン・ベニオン

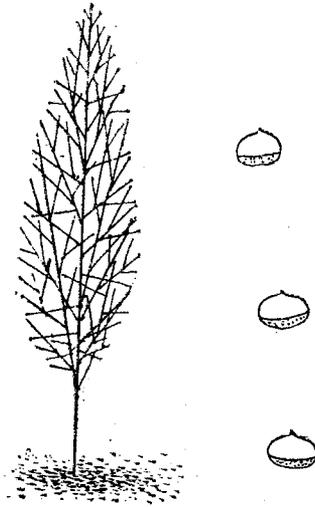
J・A・ウオシユバーン 共著

「我等の標準聖典」
等を使いました。全て主イエス・キリストの御名により致しました。アーメン。

山形支部

立秋も過ぎ急に寒さが感じられる今日この頃ですが、愛する兄弟姉妹御元氣ですか。久しぶりに全国の皆さんにお会いできましたことを心より感謝申し上げます。山形支部からお便りします。

七月に今まで長い間支部のために頑張っておりました賀久長老、ブラウン長老及び二人の長老達全員が転勤なされ、新しい支部長に屋富祖長老、永田長老、新しくアメリカ



(しぶだより)

カから来たヤング長老、ネルソン長老を迎えて支部の雰囲気も一変したような感じがします。

今度の支部長は聖書研究会を受けた、福音の素質たれ、福音の素晴らしい知識をユ一モアを入れながら私達に教えまた、聖餐式平均出席人数三五名を目

標を三倍にと張り切っておられます。私達会員も共に同じ目標を目指し、支部長がいつも口にされる「神様が私達のために何を為し得るかを考える前に、私達が神様のために何を為すことができるかを考えまた、支部長が私達に何を為し得るかを考える前に、私達が支部長のために何を為すことができるかを考えよ。私達日本の地において、最も神様から愛され祝福された人々です。神様から選ばれた人々です。神と人に奉仕するために神様から選ばれ、大なる期待を掛けられています。」

の言葉に常に念頭に、御国建設のため惜しむことなく力を尽して行かなければならないと思えます。それで各組織役員も大巾に変わられて、新しく確立した組織が出来上がりました。

八月七、八日の両日、各組織の役員達の十分なる準備と計画の下に、山形支部大会が花々しく開かれました。その中から二、三御紹介致しましょう。今回のMIAでは、曾て見たことも無いようなファッションショウが飛び出しました。黄木兄弟と金沢姉妹の組の権兵衛、と題するトップモード、なんと登山靴をはき、肥桶を担いだ半近代的なモードで見ている会員の中から爆笑がおこりました。(いや安心の程。この、コヤシ、はそれから撒いても大丈夫。中身は紙切れです。勿論入れ物はバケツ) また鈴木茂兄弟と後藤節子姉妹の組の、台所、と題するトップモード(だって、しゃもじがネクタイになりタワシがイヤリングと来るんだからね。後の主婦もたまらない)またして今度は愛らしいモデル、高橋成治兄弟と後藤妃子姉妹、題して、子供、ところがこのモードすごく素敵。今頃の雨には放射能が入っているのだから傘を差すよりビニールを被る方が良いとか。そうな

ると勿論酸素が必要。そこで現代っ子の考えることとして、もうすっかり過酸化水素と二酸化マンガンが用意されているんです。今度は和服姿の兄弟姉妹及ば宣教師の皆さんで、花笠音頭、身振り手振りもまぢまぢで、見ている会員の中から自然手拍子も高くなりお互いに楽しく過しました。大会の雰囲気も最

好調でした。最後に屋富祖長老の迷司会の下でネルソン長老とヤング長老のタレント披露。歯を磨いたり、口紅を塗ったり。ところがそれを自分でやるのなら簡単ですが、一人が後に隠れて手だけ出し、丁度一人の人がお化粧しているようにするのでもありません。口紅なんか鱗の方に大きく塗られる始末。本

当にオナカを抱えて笑ってしまいました。八月八日(聖日)朝から晴天で、多くの兄弟姉妹が約六十人位出席して、また地方部より四人の兄弟姉妹をお迎えし神様の御霊の中心で、朝九時より、神権会、扶助協会、一般大会、聖餐式及び証司会が催されました。

三時、大会最後の催しにファイヤサイドが設けられ、地方部役員により、ハワイ神殿やハワイの風景等美しいスライドを見せていただき、またハワイでの教会の活動等お聞きし楽しく時を過しました。もう一本のスライド

は東京東支部の活潑な活動状況案内。山形支部も負けずに頑張ろう。

山形支部大会が、神様の豊かな祝福とお導びきにより、始終御霊に満たされたまま此に無事最後の幕を閉じることができましたことを心より感謝申し上げます。

全国の各支部の発展をお祈り申し上げます。

名古屋支部

「天高く馬肥ゆる秋」日一日と秋が深くなってゆきますが全国の兄弟、姉妹の皆さんいかがですか、再び支部だよりができますことを感謝します。

さる、八月二十五日名古屋支部の宣教師が主催となってウォルト・デズニール制作の「幸福の探求」という映画が愛知県中小企業センターで催されました。この映画をより多くの人に見てもらおうというわけでより広範囲な伝道がなされ、多くの兄弟、姉妹がこのために貴重な時間を費やして下さいました。このような努力にもかかわらず、当日、予想していたほどの人数は集まりませんでしたけど、みるべきものはみななければいけませんね、

八月二十八日(土)と二十九日(日)の二

日にわたって西地方部大会が名古屋で行なわれました。名古屋支部では始めての大会とあって、教会員のほりきることといったら、今までよりも一段と素晴らしい大会にしようというわけで、みんなすごくほりきっちゃいました。

二十八日、六時半より理容会館でMIA大会、半分以上は知らない人たちがばかりですが、同じモルモンというせいでしょうか、なにかしらないけれども暖かさがなんとなく感じられました。

二十九日は日生会館で一般大会の第一部と第二部が行なわれました。第一部は十一時から一時までで新しく伝導部長になられました小松伝導部長管理のもとに開会の歌、二十七を歌っておごそかなかにもなんとなく、はなやいだ気分が始まりました。ハワイ神殿訪問者の証詞があり、途中で名古屋支部のコースがはいりました。お昼やすみともなると今までお世話になった宣教師になつかしげに話しかける兄弟、姉妹、これこそほんとうに大会ならではの事です。

二時半から一般大会の第二部、第一部に引き続きハワイ神殿訪問者全員の証詞、途中に関西LDSコースがはいりこの会を、いっ

そう盛り上げることができました。

閉会の歌#八十四を歌って二十八日、二十九日、二日にわたった西地方部大会を無事おえることができました。ほんとに素晴らしい大会でした。私たち個人個人の力は小さいですが、それでも、こうして一つの目標をめざして集まった時、そこには目には見えない偉大な力支というものがあることをつくづく思いましました。

(北川記)

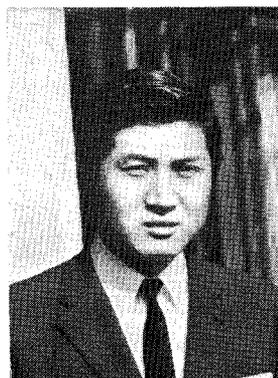
三宮支部

北は北海道から南は沖縄まで、日本全国の兄弟姉妹コンニチワ。

ひさしぶりにこのページをかりて、わが支部の近況をお知らせいたします。

このところ、わが支部の発展ぶりはめざましく、定例会会における出席者の数も急激にふえています。ところが、これにひきかえ、わが支部(建物)は創立当時の小さなままで部屋数も少ないところから、きわめて肩身のせまい(?)思いをしており、新しい大きな建物をもっている。あるいはもちつつある支部をうらやましく思います。

しかし、わが支部では、大神権者も七月末現在で二十五名を教え、そのうちの八十四%



(樽本正弘兄弟)

にあたる二十一名がいずれおとらぬ活発な兄弟たちで、西中央地方部、とくに関西プロックにおける諸活動の原動力になっています。

また、最近、家族ぐるみの改宗がつづいており、わが支部の前途には洋々たるものが感じられます。

話かわって、このほど、わが支部から「タルさん」こと樽本正弘兄弟が伝道に出かけました。彼は、現在すでに東京で建築宣教師として働いていますが、約半年の間建築宣教師を勤めたのち、二年半の間、本格的に福音の伝道を始めます。

彼について紹介すると、まず、非常に強い信仰をもったモルモンです。そして、教義についての知識のみならず一般的な常識、教養も豊富にもっています。また、スポーツは万能で、陸上競技(ハードル)では国体の兵庫

県記録保持者(現在でも)であり、そのほかにも糸東流空手などもたしなみます。そのうえ、落語の研究家でもあり、さか立ちしたまま水を飲むヨガの秘技も身につけています。このように、彼はひとことというところ、いわゆる「かわったオトコ」ということになりませんが、そのスケールの大きい人間性はわが支部でも重要な(?)位置を占めていました。

最近わが支部において「あなたは指導者」という西中央地方部の雑誌を編集、発行しております。そして、発行まじかになると、兄弟たちは連日のように徹夜にちかい作業をして、がんばっています。また、一部の姉妹たちも、この雑誌のために多大の時間的および肉体的犠牲をはらって、よくがんばっております。

今度東中央地方部においてはM I Aにミューチュアルスタディクラスを設け別表の通り実施することになりましたから他地方部各支部においてもできるだけこれに準じて実施されるようお願い致します。

伝道部系図委員会

1965 — 1966 年度 M I A 系図クラス、レッスン及び作業一覧

テキスト：旧日系図採求要覧 資料：記念の書、系図、家族の記録、戸籍謄本等

月 日	レ ッ ス ン	作 業
1965 11	10 聖文に基くはしがき	教師は上記資料持参のこと（毎回）戸籍謄本のとりかたその他系図資料採求方法指導説明
12	2 第一章 系図序論	日本歴西歴対照年代表持参（毎回）年月日記入法及び記念の書説明
12	9 第二章 白紙及び家族史誌	記念の書作成 白紙の利用及び家族史記入方指導
12	16 第三章 個人の記録	個人の記録作成
1966 1	6 第四章 家族代表及びファミリー・グループシート（家族の記録）の前置き	ファミリー・グループシート（家族の記録）作成
1	13 第五章 ファミリー・グループシート	〃
1	20 第六章 ファミリー・グループシート及び関連せる特別指示	〃
1	27 第七章 養子縁組及びび場所並に日付の推定上の特別指示	〃
2	3 第八章 ペディグリーチャート（系図）及び肖像入りペディグリーチャート	ペディグリー・チャート（系図）及び肖像入りペディグリー・チャートの作成
2	17 附録第二 日本における系図委員会組織	〃
3	3 附録第三 ホーム・ティチング	ペディグリー・チャート及びファミリー・グループシート作成
3	10 附録第四 報告書	〃
3	24 第九章 責任の系統と血族関係	記念の書整備、白紙の利用家族史記入
3	31 第十章 保存すべき記録及び提出すべき記録	ファミリー・グループシート作成
4	7 第十一章 家伝の真実性のテスト及びその探求	自家系図資料持参真実性の検討
4	21 第十二章 家庭内の出所及び探求手続開始	資料採求経験発表
4	28 第十三章 決定的な記録（戸籍）から援助	マイクロ・フィルムデモンストレーション
5	12 第十四章 他の合法的記録及び他の可能な出所	ファミリー・グループシート作成
5	19 第十五章 通信を通じて確保される援助	〃
6	1 第十六章 結 論	記念の書整備
6	9 レッソンの総まとめ	系図の証会
6	16 30 神 殿 の 話	神殿の証会
7	7 14 ソルトレーク系図協会の話	系図協会の資料展示説明
7	21 系図の重要性に就て	討 論 会

注目されるアロン神権者の活動

—東京北支部のアロン神権者の活動に関して—

参照巻頭写真

考察・松浦孝康

アロン神権者は青少年と成人のクラスにわけられて毎日曜日の九時から開かれる神権会
に出席している。

アロン神権者の青少年といえどもすべて戦後に生れたはつらつとした若者である。
一時戦後成長した彼らに危険な十七才というレッテルをはられたことも記憶に残る。

今では新語として非行少年なる言葉も生れて戦後成長してきた十代の少年たちの教育の
あり方がなにかと問題視されてきた。しかし一方では彼らのもっている伸々とした精神、
立派な体は目をみはらせるものがある。

彼らのそうしたエネルギーは今どこに向って行こうとしているのだろうか。

今またビートルズ旋風とか、エレキ族というマスコミの檜舞台におどりでできている。
彼らは何を求めているのだろうか？

また彼らの行動を世の大人たちは批判するだけでなす術を知らず。

こうした若い人々と大人の断層は日本だけでなく世界的な流れであるとまでいわれる
こうした問題をどのような視点から解決の緒をみつけたらよいのだろうか。

彼らの精神のよりどころを分析する評論家になるのではなく真に彼らの巨大なエネルギー
の志向する目標を真の目標にすえつけなければならぬ。

毎週日曜日には、若きアロン神権者が真実の道を求めて集っているがまた一方でビート
ルズに魅力を感じ、エレキに熱中したい欲望のある人々のことも知らなければならぬ。

末日聖徒イエス・キリスト教会には人間の救いに関するプログラムは完備されていると
いっても過言ではないだろう。

日曜日の神権会は今問題の解決を迫られている青少年問題に対する大きな解決を与えて
くれる組織である。

そこに出席する青少年はそこで教えられるものを身につけることによって義のよさを
着ることになる。

日本の青少年がすべてビートルズ旋風にまたエレキに熱中しているのではないとしても
彼らのもつエネルギーは注目しないではいられないだろう。

広言がゆるされるならば彼らのエネルギーの持ち行く先如何によつては日本の将来、世界の将来がかかっていると見て良いだらう。

このことから、末日聖徒イエス・キリスト教会のアロン神権者たちはこれから大きな比重を占めて行くことになる。

日本においては当教会の推進者となる人々なのであるから、私たちは大いに注目しなければならぬのではあるまいか。

少くとも彼らとの断絶は大きくしてはならない。

ここで私は戦後二十年の間に生れ、成長してきたアロン神権者の姿をとらえてみたい。

そこで東京の北支部のアロン神権者の活動を紹介しよう。

東京北支部は山手線の池袋駅を中心とした地域を主にした会員によつて構成されている。

北支部は中野区と新宿区の両方にその位置を占めている。

清浄な教会堂が周りの住宅地に一際さわだつて建っている。

日本に建築計画がなされてはじめて与えられた教会堂でもある

今や教会の設備も整い、そこに集う人々によつて力づくよく未来への礎を築きはじめている。

ここに紹介する人々——ほとんどが戦後に生れ育つたアロン神権者と姉妹たち——はその一群である。

佐藤義記兄弟、彼は北支部にあつてはアロン神権者の主事としてその責任をはたし、若いアロン神権者の指導的立場にある彼はアロン神権者である井上、万、藤松兄弟等とともにアロン神権者の夏休みの活動として教会外での活動を計画したのである。これに呼応して、若き姉妹たちが参加することに決定、

その若い人たちのなかには一人のご老体——といつては失礼にあたるかもしれない——も混つて若い会員たちを励ましていた。彼は若い人たちと生活を共にすることが楽しいといつたふうに見られる。

東中央地方部の評議員として活躍しておられる田中英男兄弟その人である。

彼は若い人たちに少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからずといつては励ましておられる。

このように意気のあつた者同士がかねて打ち合せておいたように山手線の目白駅に向つたのであつた。

彼らは朝の六時から駅の掃除をして公共の場所をきれいにしようと思つたのである。

心よく迎えて下さつた目白駅では彼らの努力に助役さんが感謝の意をのべられたのであつた。お礼を受けた喜びはもとより参加した彼らのなかにはもつと大きな喜びと祝福があつたにちがいない。彼らはまた夏休みを無為にはすごさない。

つづいて新宿にある国立第一身体障害者の寮にいつて掃除を手伝つたのである。

また廃品を回収して恵まれぬ人々のためにその利益を新聞社を通じて寄附したのである。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はしばしば、実践する民、であるといわれる。

煙草が体のためによくないと知つてから彼らは煙草を口にしないのである。酒、お茶、コーヒーもまた飲まない。

言葉だけでなく実践するところに末日聖徒の末日聖徒たる所

以が存在する。

はたして日本の地にも実践する民としての自覚が抬頭してきた。それもアロン神権者によって……。

東京北支部にみられるこれらのことはやがてその真価を發揮するであろうところの氷山の一角であることはまちがいあるまい。

末日聖徒イエス・キリスト教会に集まる会員は想像以上に若い人たちが多い。それだけに大きなエネルギーを宿した会員がいるのである。

彼らが自分たちの行く道を悟り、神の道に従って成長していくときに教会の未来は大きく発展して行くことを約束されているのではないか。

彼らがまことの福音に添った生活を実践して行くときに私たちは彼らに何を期待できるであろうか……。

彼らが良き指導者に恵まれて成長して行くのを見るとときそれは大きな宝ではなからうか。

まことに日本の現在の状態が開拓者の時代といえるならば私の私たちの指導者であり予言者であったブリガム・ヤング大管長のことは私たちに大きな灯を与えてくれるように思う。「人の子供たちが知るところをすべて学習せよ。そして地表にある最も洗練された社会に住むための準備をせよ。」

そして祝福される人々―即ち神の御前に住む聖なる天使たちの社会に入る準備をし、且つそこに入ることを許されるまでに常にこの得た知識を改良増大せしめよ。神はその純粹の故に火の如きお方である。われわれは、世界の事柄に関しては深い知

識を有する人とならなければならない。」と

私たちは神への信頼を増すように勧めました。また模範を示し、アロン神権をもつ若き兄弟にブリガム・ヤング大管長がいわれるように学ぶことを勧めなければならぬ。

ブリガム・ヤング大管長はまことによき指導者であった。彼の良き指導は現在のソルトレークを約束していたのであった。日本の各地には兄弟姉妹として結ばれた人々がもうすぐ一万になろうとしている。

将来を荷う若き神権者は日本の地のあちこちにやがて咲き誇るであろう蕾である。

そうして美しき花が咲き誇るようなアロン神権者との関係をより密接に指導して行くことが教会の発展を約束していることにならないだろうか。

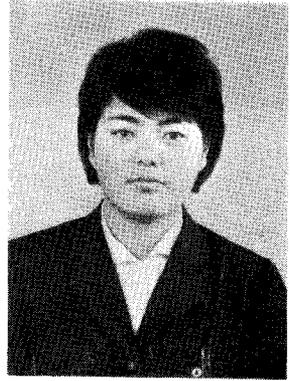
それには彼らの行動が誤っているならば毅然とした態度をもちながらもやさしく指導する指導者でなければならぬ。

よきことを喜び、励ます指導者でありたい。

伝道部長さんは十年後の日本の将来を考えなければならぬといわれたがこのことを思うにつけ注目されるのはアロン神権者の活動ではなからうか。

そのことが末日聖徒をして、地の塩、となさしめるのではなからうか。

その片鱗が東京北支部のアロン神権者の活動であるように思えてならない。



「三分半の話」

本郷ミヤ子（仙台）

夏休みに経験したことを少しお話ししたいと思ひます。私は夏休みを少しでも有意義に過ごすには、家には母に甘えるばかりで、なまけ心を起すに違いないと考え、東京の親類の家に行くことにしました。遊びに行くのでは、せっかくの休みをだいなしにしてしまひそうなので社会勉強をするつもりで行くことにしたのです。それでおばと相談した結果、レジの方を手伝わせてもらうことにしました。第一日は私にとり初めての経験のためか何もかもが珍しく無我夢中で過ごしてしまひました。親類の家のせいか皆がいうような働くことのつらさとか、対人関係の問題

などはさほど感じませんでした。それでも中にはいやなお客さんもいました。でも今こうして休み中のことを考えると不思議と楽しい思い出だけが目の前に浮かんできます。店で一緒に働いていた人と友達になれたことや休みの間だけでも一人前の社会人になったような気持ちになれたことなど働くことは本当に楽しいことだなどつくづく思います。私が見たのは社会のほんの一部にしかすぎませんが、こんなことが言えるのかもしれない。私の見た範囲では、働くことを真剣に考えている人がたくさんいると思います。いつもの休みに比べると少々忙しく終った毎日でしたが、働いている間にも私は教会を一日として忘れたことはありませんでした。それは「祈り」があったからです。祈りにより私は神様から祝福を受け、教会にあるような靈的雰囲気を感じる事ができたからだと思います。祈りを私達から取ってしまうことはできません。この私達から祈りを取ったら神様と私達との間のつながりがなくなってしまうでしょう。本当に謙り祈る時、聖靈に満たされると言うことを心から証詞いたします。これらのお話をイエスキリストの御名によってお話ししました。アーメン

編集後記

◎十一月は霜月、北海道の兄弟姉妹だけでなく全国の兄弟姉妹の身辺には木枯しが肌をさす頃となりましたがお元氣のことと思ひます。

◎最近各地より投稿、写真、助言などが数多く寄せられています。

係としては出来る限りご期待に添いたいと考えていますから御意見などがありましたら係までお便り下さい。

◎「聖徒の道」はあなたとともに成長して行くものです。あなたの座右において良い友としましょう。

またあなたのお友だちに読むよう勧めて下さい。

◎寒さに対する身体の準備とともにまた「聖徒の道」によって心の準備をいつも心掛けおこましましょう。

（松浦）

November

The Lord is my shepherd, I shall not want. Psalm 23:1

TONGUE TWISTER

Five fine, frisky fishes
flipped their fins fitfully.

Bible Quiz

by Doris Bell

Can you answer these questions?

1. What was the house of God on Mt. Moriah?
2. Who was the first king of Israel?
3. What Jewish girl became a famous queen of Persia?
4. How old was Moses when he died?
5. What was Paul's trade?
6. What book in the Old Testament has the most chapters?
7. Which book is the shortest of the Old Testament books?
8. Which book in the New Testament has the most chapters?
9. Which book or books in the New Testament are the shortest?

THE AMAZING THINGS FOUR LITTLE LETTERS CAN DO!

by Adelyn Jackson Richards

Just arrange the letters O, S, T, P, in the proper position in each of the five sentences below and spell the five common words you use every day:

1. Here on the gate sat the robin, singing gaily.
2. Oh, please try to the run-away horse!
3. Mother always cuts the off the onions.
4. Will you please wash the and pans?
5. There's a of ink on your paper.

TURKEY

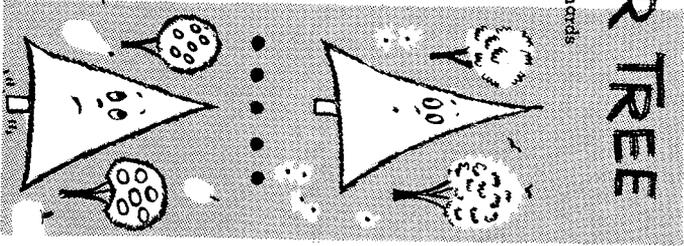
Donnie H. Weiler

Turkey walking
wobble, wobble.
Turkey talking
gobble, gobble.
Turkey cooking
yummy, yummy.
Turkey's eaten
in my tummy!

THE LITTLE FIR TREE

by Adelyn Jackson Richards

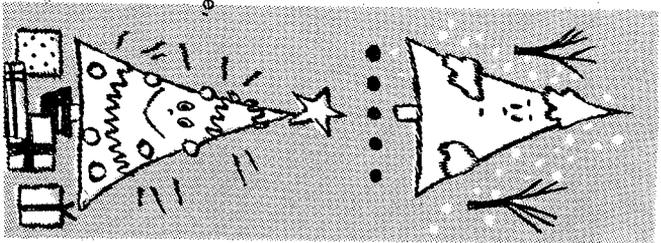
"In my only frock of somber green,
I'm very plain, I think:
I wish I were an apple tree
In a gown of dainty pink!"



Unhappy was the little fir,
Oh, very sad and glum!
She gazed about on brighter trees—
The apple, pear, and plum.

But when the frost came in the fall,
They stood about all bare;
They hadn't any dress at all—
The apple, plum, and pear!

Then when the happy Yuletide came,
The fir was a Christmas tree.
"How glad I am," cried the little fir,
That I am only me!"



ILLUSTRATED BY DOROTHY WASSTAF

CHRISTMAS EVE

Christmas Eve should be the loveliest night of the year. The gifts are ready, the shopping is finished, the house is decorated, and the family gathers round to hear again the marvelous story of the Christ child. Carols are sung and their hallowed music makes sweet the remembrance of His birth—Adele Cannon Howells

FRIENDLINESS WINS FRIENDS

Now this idea isn't new,
And sounds too simple to be true,
But *what you give—comes back to you.*
Friendliness wins *friends!*

Jo Lynn was such a timid lass
That children teased when she would pass,
So she made cookies for her class.
Friendliness wins *friends!*

A bully picked on little Marty,
Took his book and made him tardy,
So Marty asked him to his party.
Friendliness wins *bullies!*

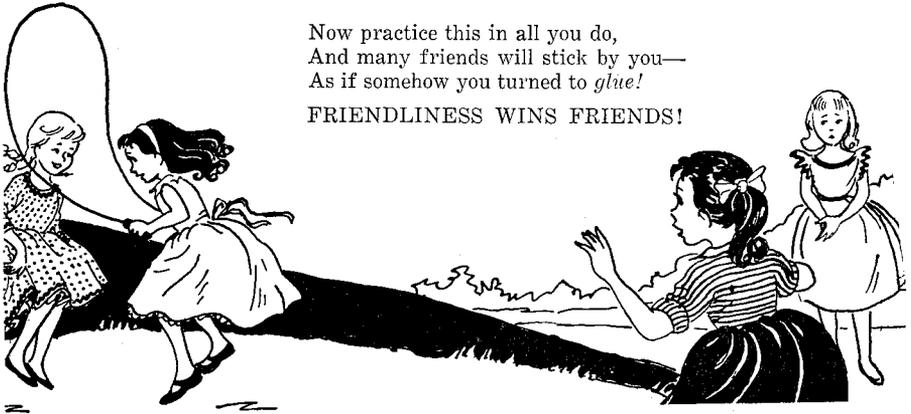
Maureen had legs that could not walk,
But she could laugh and sing and talk,
And draw for friends with colored chalk.
Friendliness wins *friends!*

A mean dog lived by David's home.
Each day he threw the dog a bone,
And now the dog leaves him alone.
Friendliness wins *dogs!*

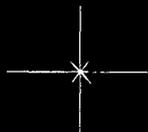
His little brother was a pest
'Till Randy tried what we suggest
And chummed with him and shared his best.
Friendliness wins *brothers!*

Now practice this in all you do,
And many friends will stick by you—
As if somehow you turned to *glue!*

FRIENDLINESS WINS FRIENDS!



THE THREE GIFTS



There was no Christmas tree in the stable at Bethlehem that first Christmas Day so long ago . . . but later, strange, wonderful gifts were brought to the Baby Jesus by three great kings of the East.

“. . . and when they had opened their treasures, they presented unto him gifts; gold, and frankincense and myrrh.”
(Matthew 2:11).

Every Christmas we read and talk and sing about these gifts, but do we know what they really are? Do we know why these three treasures were chosen above all others for the Christ Child?

First there was gold. This precious metal had been sought after by men of all ages. Its beauty dazzled them. Its scarcity made it valuable. Goldsmiths found they could mold gold into any shape without trouble. It could be worked over and over again without harm.

At first it was made into jewelry and ornaments. Then it was used to make coins. The more gold a man had, the more wealthy and more powerful he became. The men who came to own the most gold were of course the kings. So gold became the symbol of kingship.

The Wise Men chose gold for their first gift because Jesus was to be a king.

Then there was frankincense. Frankincense is an old French word meaning pure incense. It came from the handsome frankincense tree of India and northern Arabia. Every spring the Arabs would strip a thin layer of bark from these trees. The sap which flowed out hardened into a clear, brittle resin. This fragrant resin made the finest burning incense in the world. It was regularly burned in the holy temple. In time it became the symbol of holiness.

The Wise Men chose frankincense for their second gift because Jesus was holy.

Finally there was myrrh. Myrrh was a gummy resin from a large bush growing in southern Arabia. When its papery bark was pierced, a thick white sap oozed out and turned red in the air. It was spicy-smelling but bitter-tasting.

The Arabs sold myrrh for use as spice, medicine, perfume, and incense. The Hebrews used it as a salve for purifying the dead. So it became a symbol for suffering and death.

The Wise Men chose bitter myrrh for their third gift because of Jesus' suffering and death to come.

These, then, were the three treasures from the three kings of the East.

—Janice J. Beaty



図
書
案
内

教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	上質革製合本	1100円
教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	合本	300円
モルモン経	(新訳)	300円
信仰箇条の研究		330円
モルモンとは?	(新版)	150円
総合聖句の手引		150円
日本系図探究要覧		100円
アロン神権者用学科課程		150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用 「モルモン経の読み方の手引」		200円
ナザレのイエス		100円
正しい日本史		100円
家督権の祝福		100円
料理の作り方		50円
求道者教育法		120円
神の王国		230円
基督・イエス		300円

日曜学校用

モルモン経物語	150円
旧約聖書物語	150円
家族の昇栄	200円
福音の実践	200円
奇しきみわざ(上)(下)	200円
我等の標準聖典	200円
古代の使徒	150円
シオン山の救い手たち	200円
教義と聖約の教え	200円

M I A 用

我ら指導者のことば	200円
我らは信じる	200円
我らは生きる	120円
我らは奉仕する (1966年度テキスト)	150円
生活の目標	150円
今日の十誡	250円
M I A・エンサイン・ローレルの手引	150円
演説が上手になる法	150円
素晴しき考え (1966年度テキスト)	200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌 (新版)	400円
レクリエーション歌集	400円

……………注文は各支部長へ……………

THE SEITO NO MICHU

Volume 9, November 1965, Number 11

THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION

TEL (473) 1613. 14 Azabuhirou-cho Minato-ku Tokyo Japan

支 部 所 在 地

- 北海道地方部
旭川市八条五丁目
MIA集会所 旭川公会堂
電話(二一五四五)
室蘭市幸町八九
電話(七〇五五)
- 小樽市富岡町一ノ三五
電話(二一八二二四)
- 札幌市北二条西二丁目
電話(六三三七八六〇)
- 東中央地方部
高崎市並榎町二七五
電話(二一七一一一)
- 甲府市中央三丁目一二一二
松本市鷹匠町二六九
新潟市中央大畑町五五七
電話(二一八六六〇)
- 仙台市光禪寺通り二八
電話(二五〇八九七)
- 東京中央
東京都港区青山北三丁目三三四
電話(四〇八一三三〇七)
- 東京北
東京都中野区江原町一ノ八ノ十四
電話(九五二)一五三一
- 東京東
東京都江戸川区小岩町六一七八〇
電話(六五七―五二三三)
- 東京南
東京都大田区南千束町二四九
電話(七二九一六三一)
- 東京西
東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七
電話(二一六七六四)

山 形 形

山形市七日町四丁目十二ノ二十三
横浜市港北区篠原町二九
電話(四九一八七七二)

西 中 央 地 方 部

大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話(六二一―八三三七)

阿 倍 野

福岡市浄水町四六
電話(五二一八六五三)

福 岡

広島市古田町古江四〇〇ノ三
電話(三一六一一三五)

廣 島

金沢市上胡桃町一一
京都市左京区下鴨松原町四四

金 沢

名古屋都
名古屋市中昭和区北山町三ノ四一
電話(七三三四二一〇)

京 古 屋

西ノ宮
兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話(五一〇一四一)

岡 宮

岡 山
大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話(二一―二三六)

岡 山

三ノ宮
神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話(八六一―二六〇二)

柳 井

沖繩地方部
山口県柳井市今市三九一

沖 繩 地 方 部

普 天 間
沖繩宜野湾市野嵩区三二八

那 覇

那 覇
沖繩那覇市松尾区一三九
東京都港区青山北町六ノ三四
電話(四〇二―四〇一〇)

建 築 部 事 務 所

聖 徒 の 道

1965年11月1日発行

振替口座 東京16226番

発行人兼 編集人 アドニー・小松義雄

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部

東京都港区麻布台尾町14 (473) 1613

印刷所 合名会社 三五堂